

2020年9月分新聞書評



大切なあの人に聞けばよかった話せばよかった

聞こう話そう委員会 著

サンクチュアリ・パブリッシング (サンクチュアリ出版)

いつかは必ず訪れる、大切な人との別れ。それまでに何をしておけばよかったか。「後悔」を基にした113人からの体験的アドバイスを収録する。身近な人とのコミュニケーションに役立つヒント集なども掲載。書き込み欄あり。

2020/5./ 384p

978-4-86113-189-9

本体 ¥1,000+税



産経新聞 2020/09/05



人生で大事なことはみんなゴリラから教わった

山極 寿一 著

家の光協会

ゴリラに会いにアフリカへ向かった大学院生の「わたし」。ときに命の危険を感じながら、ゴリラとジャングルを歩き…。世界的ゴリラ研究者が、40年間の研究生活を振り返りつつ、ゴリラから学んだ「人間の生き方」を伝える。

2020/8./ 223p

978-4-259-54773-8

本体 ¥1,300+税



産経新聞 2020/09/05



カラスはざる賢い、ハトは頭が悪い、サメは狂暴、イルカは温厚って本当か？

松原 始 著

山と溪谷社

ハゲタカはハゲだから清潔に生きられる、チョウは花だけじゃなく糞にもとまる、一匹狼は孤独を好んでいるわけじゃない…。動物の見た目の誤解、性格の誤解、生き方の誤解について、事例をあげながら生物学的に解説する。

2020/6./ 285p

978-4-635-06294-7

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/09/05



革命記念日に生まれて～子どもの目で見た日本、ソ連～

エルヴィン・ナギ 著

垣内出版

スターリン体制、独ソ戦、長い長い全体主義の時代…。モスクワに生まれ、日本で育ち、粛清で父を失った著者による、“ソ連に生きること”の手触りを直に伝える回想録。粛清された父の KGB 尋問記録も掲載。

2020/8./ 438p

978-4-7734-2038-8

本体 ¥2,700+税



産経新聞 2020/09/06

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBNも併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2020年10月時点での税抜価格です。



ぼくといっしょに

シャルロット・デマトーン 著
ブロンズ新社

ぼくの家まわりは冒険でいっぱい! ドラゴンがすむ森、ひとくいザメのいる深い海...。きけんを乗り越え、ぶじにおつかいに行けるかな? ちいさな男の子のおおきな想像力の絵本。

2020/6/ 1 冊(ページ
付なし)
978-4-89309-674-6

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/09/06



陶酔映像論

伊藤 俊治 著
青土社

映像は柔らかく揺れ動くエクスタシー。映像はエクスタシーの記録ではなく、エクスタシーそのものであり、映像の内部で人の陶酔と同様の化学変化が起こっている。人間の本質的な認識論として、陶酔と映像の?がりを探究する。

2020/6/ 366p
978-4-7917-7281-0

本体 ¥2,600+税



産経新聞 2020/09/06



ホーム

堂場 瞬一 著
集英社

元日本人大リーガーの藤原雄大は、東京オリンピック野球アメリカ代表の監督を任される。日米二重国籍を持つ天才バッターをスカウトするなど、チーム作りを進めるが...。2001年刊「8年」の続編。『小説すばる』連載に加筆。

2020/6/ 370p
978-4-08-771715-0

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2020/09/06



江戸の夢びらき

松井 今朝子 著
文藝春秋

荒事の開祖にして、最後は舞台上で刺殺されたカリスマ。信仰に近い人気を得て、今なお愛される名演目と斬新な演出を生み出した不世出の天才。謎多き初代市川團十郎の生涯を、元禄の狂乱と江戸歌舞伎の胎動とともに描き切る。

2020/4/ 351p
978-4-16-391196-0

本体 ¥1,900+税



産経新聞 2020/09/06



受け師の道～百折不撓の棋士・木村一基～

樋口 薫 著
東京新聞出版部

最年長・最遅・最多挑戦で「おじさん」が初タイトルを取った! 王位・木村一基のこれまでの歩みを綴る。「王位獲得記念トークショー」「第六十期王位戦七番勝負 棋譜」も収録。『東京新聞』『中日新聞』連載に加筆再編集。

2020/6/ 209p
978-4-8083-1047-9

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/09/06



赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。

青柳 碧人 著
双葉社

森の中のお菓子の家。走り抜けるカボチャの馬車。お城で、眠り続けるお姫さま。次から次へと起きる事件を赤ずきんがスッキリ解決! 世界の童話を密室などミステリのテーマで読み解く作品集。『小説推理』掲載を書籍化。

2020/8/ 281p
978-4-575-24289-8

本体 ¥1,350+税



産経新聞 2020/09/06



秦氏の夢 長宗我部元親

長宗我部 友親 著
河出書房新社

代表的な渡来の民・秦氏の夢を担ったその末裔・長宗我部氏。天正の陣、家康供応での出来事、聚楽第での会話など、四国統一を成し遂げた元親の、野望、政略、治世、その後の真実を17代当主が描く。

産経新聞 2020/09/06

2020.5./ 211p
978-4-309-22804-4
本体 ¥1,800+税



ロレンスになれなかった男～空手でアラブを制した岡本秀樹の生涯～

小倉 孝保 著
KADOKAWA

中東で秘密警察や政府要人に空手を指導。外国製品の闇ルート販売とカジノ経営に乗り出すが、国際情勢に翻弄され計画は暗礁に乗り上げる。すべてを失った男がたどり着いた場所とは。アラブに空手を普及させた男の人生を描く。

産経新聞 2020/09/06

2020.6./ 285p
978-4-04-109160-9
本体 ¥2,200+税



われわれが習近平体制と命がけて闘う13の理由～中国の知識人による決死の「内部告発」～

金文学 著
ビジネス社

新型コロナ禍は、完全に“人災”である！ 北京大学、清華大学教授から世界的作家まで、習近平体制と闘う13人の中国人エリートたちが、中国人しか知らない中国国内の悲しい真実の数々を告発する。

産経新聞 2020/09/12

2020.7./ 286p
978-4-8284-2181-0
本体 ¥1,600+税



検証ブラックアウト～北海道胆振東部地震～

北海道新聞社 編
北海道新聞社

2018年9月6日未明、北海道を襲った震度7の「激震」。地震による全域停電=ブラックアウトはなぜ発生し、人々はどう動き、企業や行政はどう対応したか、その経験を語り継ぐ。『北海道新聞』連載を再編集して単行本化。

産経新聞 2020/09/13

2020.8./ 239p
978-4-89453-998-3
本体 ¥1,500+税



ねこになっちゃった～角野栄子のアコちゃん絵本～

角野 栄子 著
小学館

アコちゃんは、いつもおともだちのトラトラちゃんとクマちゃんといっしょ。そこへ、となりの家のねこのミミがやってきました。みんなでミミのまねをしてねこあそびをしていると、お母さんがやってきて…。

産経新聞 2020/09/13

2020.7./ 1冊(ページ付なし)
978-4-09-725073-9
本体 ¥1,100+税



ロマノフ王朝時代の日露交流

牧野元紀 編
勉誠出版

ヨーロッパからアジアにまたがる広大な領域を支配したロマノフ王朝。江戸時代以来、日露戦争を経て、ロシア革命前夜まで続いた日露関係の展開を、アジア関連資料の宝庫「東洋文庫」の珠玉の名品とともに探る。

産経新聞 2020/09/13

2020.8./ 7p,494p 図版16p
978-4-585-22286-6
本体 ¥3,800+税





李登輝～いま本当に伝えたいこと～

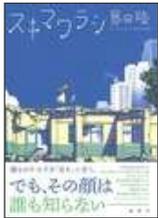
早川友久 著
ビジネス社

決断は素早く、そして柔軟な発想で。情報は常に複数の情報源から。前例のない事態には前例のない対応を。「台湾民主化の父」が遺した、日本人への最後のメッセージ。坂本龍馬について語った未公開音声聞ける QR コード付き。

2020/9./ 231p
978-4-8284-2217-6
本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/09/13



スキマワラシ

恩田 陸 著
集英社

古道具屋を営む兄・太郎と、物に秘められた“記憶”が見える弟・散多。ある日、ふたりはビルの解体現場に現れる少女の都市伝説を耳にするが…。ファンタジックミステリー。『河北新報』『中国新聞』等掲載を単行本化。

2020/8./ 462p
978-4-08-771689-4
本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/09/13



対極

鬼田 隆治 著
小学館

合法的に暴れるために SAT に志願した“悪童”中田、異例の抜擢を経て SIT 係長になった“エリート”谷垣。立場も性格も信条もまるで異なる 2 人は衝突を繰り返しながらも、謎のテロ集団と対峙し…。ポリス×ピカレスク小説。

2020/8./ 285p
978-4-09-386582-1
本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/09/13



荒木経惟、写真に生きる。

荒木経惟 著
青幻舎

写真が好きだった親父、写真家にしてくれた陽子、恩師・桑原甲子雄やビートたけし、ロバート・フランク、草間彌生との出会い…。アラーキーの写真人生を出会いとともに語る。年譜、撮り下ろし写真「傘寿いとし」も収録。

2020/5./ 226p
978-4-86152-785-2
本体 ¥3,500+税



産経新聞 2020/09/13



街角図鑑<街と境界編>

三土 たつお 著
実業之日本社

身近なものからインフラまで、街角に、街外れに、いつもあるのに私たちが「見ていない」ものたちが「見える」ようになると、街を見る目と理解が変わります。ふだんの街での暮らしをたのしくする、家と家、街と街の間の図鑑。

2020/8./ 159p
978-4-408-33941-2
本体 ¥1,700+税



産経新聞 2020/09/13



関西人はなぜ阪急を別格だと思っのか〜ブランド力を徹底検証!〜(交通新聞社新書 145)

伊原 薫 著
交通新聞社

関西で圧倒的なブランドを確立している阪急は、いかにしてそのブランドをつくりあげ、守ってきたのか。創業時からの歩み、車両、駅やサービス等に表れる阪急の個性やこだわりを注目。阪急ブランドが強固である理由を紐解く。

2020/8./ 255p
978-4-330-06220-4
本体 ¥900+税



産経新聞 2020/09/19



反日 vs. 反韓～対立激化の深層～(角川新書 K-327)

黒田 勝弘 著
KADOKAWA

2019 年夏、日本は史上初めて韓国に対し「制裁」という外交カードを切った。その後の対立は、在韓 40 年の著者にとっても、類例を見ない激しいものになった。その背景を読み解き、密になりがちな両国の適度な距離感を探る。

産経新聞 2020/09/20

2020.8./ 264p
978-4-04-082369-0
本体 ¥900+税



中古典のすすめ

斎藤 美奈子 著
紀伊國屋書店出版部

山崎豊子「白い巨塔」、小松左京「日本沈没」、村上春樹「ノルウェイの森」...。文芸評論家である著者が、ひと昔前のベストセラー48 点の賞味期限を判定する。『scripta』連載に加筆修正して単行本化。

産経新聞 2020/09/20

2020.8./ 317p
978-4-314-01152-5
本体 ¥1,700+税



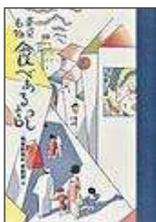
震雷の人

千葉 ともこ 著
文藝春秋

書ので世を動かしたい。文官を目指しながら、信念を曲げず敵陣の刃に倒れた顔季明。彼の許嫁の采春は興行一座に身を隠し、武術を磨きながら季明の仇討ちを計った。一方、采春の兄・張永は...。ロマン香る唐代大河小説。

産経新聞 2020/09/20

2020.9./ 314p
978-4-16-391255-4
本体 ¥1,400+税



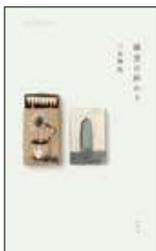
東京名物食べある記

時事新報社家庭部 編
教育評論社

昭和 4(1929)年に出版された飲食店案内記「東京名物食べある記」を復刊。『時事新報』の記者たちによる辛口評と昭和モダンを感じる挿絵から、当時の外食文化や世相が見えてくる。

産経新聞 2020/09/20

2020.6./ 286p
978-4-86624-029-9
本体 ¥1,500+税



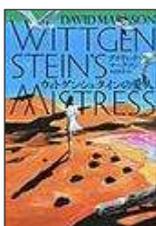
雑貨の終わり

三品 輝起 著
新潮社

身のまわりのあらゆる物が店に雪崩れ込んできた。物と雑貨の壁がこわれ、自分が何を売っているのかわからなくなり...。東京西荻の雑貨店主が綴る物と人をめぐる随想集。WEB『考える人』掲載に書下ろしを加えて書籍化。

産経新聞 2020/09/20

2020.8./ 220p
978-4-10-353511-9
本体 ¥1,800+税



ワイトゲンシュタインの愛人

デイヴィッド・マークソン 著
国書刊行会

地上から人が消え、最後の 1 人として生き残ったケイト。彼女はアメリカのとある海辺の家で暮らしながら、終末世界の「非日常的な日常」をタイプライターで書き綴る...。アメリカ実験小説の最高到達点。

産経新聞 2020/09/20

2020.7./ 321p
978-4-336-06657-2
本体 ¥2,400+税





ヤン・フスの宗教改革～中世の終わりと近代の始まり～(平凡社新書 947)

佐藤 優 著
平凡社

ルターらに先んじ、教会の権威を否定し、近代的な民族、国家誕生の契機となった15世紀チェコのヤン・フスの宗教改革。人を、時代を動かした思想はどう生まれたのか。危機の時代に求められる宗教改革の真髄を明らかにする。

産経新聞 2020/09/26

2020:7./ 190p
978-4-582-85947-8
本体 ¥800+税



旧約聖書の政治史～預言者たちの過酷なサバイバル～

古田 博司 著
春秋社

大国に挟まれ、非情な国際政治の圧力に翻弄される古代イスラエル。モーセ以来の預言者の叫び、怒り、嘆きに耳を傾け、社会科学の目で聖書を読み解き、その奮闘と悲哀を明らかにする。『WILL』連載を加筆修正して単行本化。

産経新聞 2020/09/26

2020:5./ 15p,357p
978-4-393-32386-1
本体 ¥2,700+税



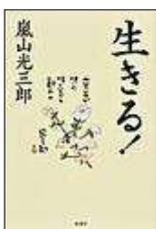
雨の中の涙のように

遠田 潤子 著
光文社

アイドルグループの一員として14歳でデビューした堀尾葉介は、22歳のときに演技の勉強のためにアイドルの座を捨てる。地道に努力を続け、実力派の俳優と評価されているが…。『小説宝石』掲載をまとめて単行本化。

産経新聞 2020/09/27

2020:8./ 293p
978-4-334-91361-8
本体 ¥1,600+税



生きる!

嵐山光三郎 著
新講社

いっそ「死ぬ気」で生き切ってみよう。そうすれば、いくつになっても明日はきっと新しい世界が見えてくる。「生きる」をテーマにしたエッセイ。『週刊朝日』連載「コンセント抜いたか」に加筆し、書き下ろしを加える。

産経新聞 2020/09/27

2020:7./ 228p
978-4-86081-599-8
本体 ¥1,500+税



9歳のこころのじてん

パク・ソンウ 著
小学館

感情を表す語彙をふやして表現力を身につけよう。気持ちを表す74のことばと、そのことばが使われる状況をイラストとともに紹介する。同じことばで気持ちを表せる3つの例文も掲載。ジャケットそでに切り取れるイラストあり。

産経新聞 2020/09/27

2020:7./ 153p
978-4-09-227217-0
本体 ¥1,300+税



地形と日本人～私たちはどこに暮らしてきたか～(日経プレミアシリーズ 438)

金田 章裕 著
日本経済新聞出版社

自然災害が頻発する地域は地形でわかる。堤防を築くと水害が起きる。河道や海岸線、山裾は動く…。歴史地理学者が、日本人の土地とのつき合い方を、知られざるエピソードとともに紹介する。

産経新聞 2020/09/27

2020:9./ 271p
978-4-532-26438-3
本体 ¥900+税





心をたもつヒント～76人が語る「コロナ」～

共同通信社 著
共同通信社

新型コロナウイルスは社会構造のひずみや人間の本性を白日の下にさらした。先の見えない不安や閉塞感に、私たちはどう向き合えばいいのか。さまざまな分野で活躍する76人からのメッセージ。共同通信社の配信記事を書籍化。

2020:9./ 175p
978-4-7641-0721-2
本体 ¥909+税



産経新聞 2020/09/27



後藤新平の劇曲平和(後藤新平の全仕事)

後藤新平研究会 編
後藤 新平、平木 白星 著
藤原書店

初代満鉄総裁、通信大臣等を務めた後藤新平による戯曲を収録。欧米列強の角逐が高まる同時代世界を見据えた彼が、国内外に向けて真に訴えたかったこととは何か? 加藤陽子の解説、出久根達郎の特別寄稿も掲載。

2020:9./ 195p
978-4-86578-281-3
本体 ¥2,700+税



産経新聞 2020/09/27、読売新聞 2020/09/27



小説神髓 改訂版(岩波文庫)

坪内 逍遙 著
岩波書店
朝日新聞 2020/09/05

2010:6./ 276p
978-4-00-310041-7
本体 ¥700+税



探偵見習い アキオ... 1(ビッグコミックス)

村上 たかし 著
小学館

泣き虫探偵(見習い)、号泣営業中! 中年も卒業間近に訳あって転職したアキオ。転職先は、幼なじみの広瀬が営む弱小探偵事務所。アキオと広瀬の珍妙なバディが、難解?な依頼を解決しながら 依頼人の心を癒やしてゆくー読み切り連作登場! 迷い猫の捜索依頼に深い意味を隠す少年、昔の恋人探しに言葉を連ねる青年、盗聴器探索を依頼する老婦人の目的..... 世間のスキマに点在する、誰かの「想い」をすくい上げる、全 8 話を収録。【編集担当からのおすすめ情報】各話、依頼人ごとの「事情」に注目! バツイチ・泣き虫・オッサンー 三拍子揃った善良な市民、アキオ。だからこそ、正義ではなく 依頼人の事情に寄り添う言葉を紡ぐ、新機軸探偵(見習い)物語です。

2020:7./ 208p
978-4-09-860726-6
本体 ¥700+税



朝日新聞 2020/09/05



枕詞はサッチャーさん～照れやな詩人、父・阪田寛夫の人生～(新潮文庫 な-105-1)

内藤 啓子 著
新潮社

「今日から俺をオジサンと呼べ」離婚して新しい妻と子供ができた時に備えた父から、ある日突然指令が下った。家族の恥部も全て創作のネタにした、童謡「サッチャーさん」の作者のハチャメチャな人生を、娘がつづる。

2020:8./ 309p
978-4-10-102191-1
本体 ¥590+税



朝日新聞 2020/09/05



ダーウィン『種の起源』を漫画で読む

チャールズ・ダーウィン／マイケル・ケラー 著
いそっぷ社

1859年に出版されたダーウィンの「種の起源」を、繊細で美しいタッチの漫画で紹介。「種の起源」を出版するまでの経緯や、ダーウィン以後の進化生物学の発展についても描く。

朝日新聞 2020/09/05

2020:6./ 191p
978-4-900963-89-4
本体 ¥1,600+税



24人のビリー・ミリガン<上> 新版(ハヤカワ文庫 NF 430)

ダニエル・キイス、堀内 静子 著
早川書房

1977年、連続レイプ犯として逮捕されたビリー・ミリガン。精神鑑定の結果、彼の中に複数の別人格が存在し、犯行はその内の一人によるものという驚愕の事実が明らかになる…。多重人格者の内面世界を描く傑作ノンフィクション。

朝日新聞 2020/09/05

2015:5./ 408p
978-4-15-050430-4
本体 ¥1,000+税



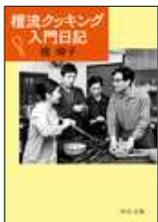
ゲンロン<0(2017April)> 観光客の哲学

東 浩紀 編
東 浩紀 著
ゲンロン

グローバリズムが世界を覆う時代、新しい政治思想の足がかりはどこにあるのか。ルソー、ローティ、ネグリ、ドストエフスキー、ネットワーク理論を自在に横断し、ヘーゲルのパラダイムを乗り越える。

朝日新聞 2020/09/05

2017:4./ 313p,10p
978-4-907188-20-7
本体 ¥2,300+税



檀流クッキング入門日記(中公文庫 た 93-1)

檀 晴子 著
中央公論新社

チチの台所は何もかも型破りだった。檀一雄の長男と結婚、義父の料理を身近で目撃してきた著者が、檀一雄の料理風景、檀家の台所を活写。さらに、義父から学んだ料理のコツを自らのものとして実践・応用していく日々を綴る。

朝日新聞 2020/09/05

2020:8./ 312p
978-4-12-206920-6
本体 ¥820+税



とうがらしの世界(講談社選書メチエ 728)

松島 憲一 著
講談社

トウガラシは、いつ日本に伝わったのか? なぜ辛いのか? トウガラシの起源と伝播、辛みの正体などについて科学的・歴史的に解説するとともに、世界各地のトウガラシの栽培や、どのように食べられているのかを紹介する。

朝日新聞 2020/09/05

2020:7./ 8p,245p
978-4-06-520292-0
本体 ¥1,700+税



哲学とは何か(河出文庫 ト 6-16)

ジル・ドゥルーズ、フェリックス・ガタリ、財津 理 著
河出書房新社

ドゥルーズ、ガタリの最後の共著にして、その思想の総決算。内在平面-概念的人物-哲学地理によって「哲学」を総括し、カオスに立ち向かう3つの平面として哲学-科学-芸術の連関を明らかにする。

朝日新聞 2020/09/05

2012:8./ 406p
978-4-309-46375-9
本体 ¥1,400+税





思い立ったら隠居～週休5日の快適生活～(ちくま文庫 お 72-2)

大原 扁理 著
筑摩書房

ひきこもりじゃない、フリーターでもない、究極の遊び人生「隠居」をご提案! 地味にひっそりと隠居暮らしをする著者が、いかにして隠居スタイルにたどり着き、楽しく毎日を生き延びる方法を見つけてきたかを語る。

2020/8./ 263p
978-4-480-43684-9
本体 ¥740+税



朝日新聞 2020/09/05



言語の起源～人類の最も偉大な発明～

Daniel L. Everett 著
白揚社

言語はいつ、誰が最初に使いはじめたのか。人はどのように言語を獲得したのか。ピダハン語の研究で世界を震撼させた、異端の言語学者が、言語学、人類学、考古学、脳科学の知見をもとに言語の起源をめぐる謎に挑む。

2020/7./ 446p
978-4-8269-0220-5
本体 ¥3,500+税



朝日新聞 2020/09/05



金閣を焼かなければならぬ～林養賢と三島由紀夫～

内海 健 著
河出書房新社

今から70年前、「美への嫉妬」とつぶやいた青年僧が、金閣に火を放った。彼に何があったのか。三島由紀夫は、期せずして、その真理を作品の中に描き出した…。狂気に秘められた真相を追究・分析するノンフィクション。

2020/6./ 223p
978-4-309-25413-5
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2020/09/05



死の病いと生の哲学(ちくま新書 1506)

船木 亨 著
筑摩書房

死への恐怖はなぜ起きるのか。死に直面することでなぜ人は初めて根本的に懷疑し、真に思考するようになるのか。哲学者自身ががんになった経験を通じて、「生きるとはどのようなことなのか」を考える。

2020/7./ 311p,5p
978-4-480-07329-7
本体 ¥940+税



朝日新聞 2020/09/05



空中写真歴史図鑑～大自然と人類文明の映像遺産～

イーモン・マッケイブ/ジェンマ・パドリー 著
原書房

自然の壮大な景観、都市と人々、事故や災害、戦禍…。偵察用の鳩カメラで撮影された1800年代の作品から、人工衛星やドローンなど現代の技術を用いた2010年代まで、空撮による歴史的写真200点を収める。

2020/7./ 254p
978-4-562-05777-1
本体 ¥5,800+税



朝日新聞 2020/09/05



ぼくが13人の人生を生きるには身体がたりない。～解離性同一性障害の、非日常的な日常～

haru 著
河出書房新社

書いた記憶のないノート、買った覚えのないパーカー、街を歩けば知らない人から声が掛かり…。脳内に13人の人格が存在する「解離性同一性障害」の当事者に起こったリアルを描く。

2020/5./ 213p
978-4-309-24963-6
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/09/05



さらば、神よ〜科学こそが道を作る〜

リチャード・ドーキンス 著
早川書房

神さまはあまりにたくさんいて、とても気ままで、実際のところどんな仕事をしてるのかもよく分からない。世界を前進させてきたのは神ではなく、いつも科学だっただろう？ 脱宗教と科学への信頼の書。

2020/7./ 327p
978-4-15-209957-0
本体 ¥2,300+税



朝日新聞 2020/09/05



仕事消滅時代の新しい生き方

本田 健 著
プレジデント社

世界が大きく変わる時。「この時代を生き抜く」という覚悟を決め、すべてを変えよう！ 「行動をお金に変える」「幸運を呼び込む」「お金の不安を手放す」など、新しい生き方のノウハウを提案する。

2020/7./ 222p
978-4-8334-5156-7
本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/09/05



ドキュメント武漢〜新型コロナウイルス封鎖都市で何が起きていたか〜 (平凡社新書 946)

早川 真 著
平凡社

世界で最初に新型コロナウイルスの流行が確認され、都市封鎖がなされた武漢では何が起きていたのか。感染が全土に拡大した中国で、習近平指導部や市民はいかに対応したのか。封鎖直前の武漢取材した迫真のドキュメント。

2020/8./ 214p
978-4-582-85946-1
本体 ¥820+税



朝日新聞 2020/09/05



霧の彼方須賀敦子

若松 英輔 著
集英社

生涯にわたり信仰と文学の「コトバ」に共振し、晩年に稀有な作品を遺した須賀敦子。その魅力の源泉とは。さまざまな出会いによって導かれた、「たましい」の旅を描く評伝。『すばる』連載に加筆・修正し単行本化。

2020/6./ 471p,6p
978-4-08-771671-9
本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2020/09/05



宮沢賢治の地学読本

柴山 元彦 編
宮沢 賢治 著
創元社

地学的な知識や表現がちりばめられている賢治作品の中から、「イギリス海岸」をはじめ特に地学的にすぐれた 5 作品を厳選し、詳細な解説とともに全文を掲載する。「宮沢賢治の地学教室」「宮沢賢治の地学実習」に続く第 3 弾。

2020/7./ 285p
978-4-422-44023-1
本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/09/05



本の読める場所を求めて

阿久津隆 著
朝日出版社

本を気持ちよく楽しくうれしく読みたい、それを可能にしてくれる場所はどこかにないか、どうあればそれが実現できるか。「フツクエ」を立ち上げるまでの思考と実践のドキュメント。「フツクエの案内書き」も収録。

2020/7./ 268p,16p
978-4-255-01187-5
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/09/05



シンプルなクローゼットが地球を救う～ファッション革命実践ガイド～

エリザベス・L・クライン 著
春秋社

毎日の服選びが、自分と世界を変えてゆく。「ファストファッション」で衣類の大量生産・廃棄の現状を取材した著者が、必要な服だけ残す方法、リセールや修理のコツから、社会的アクションまでを具体的に伝授する。

2020/6./ 261p
978-4-393-33376-1
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/09/05



永田キング～スポーツ漫才で一世を風靡した男の物語。～

澤田 隆治 著
鳥影社

万人のために、<スポーツ漫才>を生み出し、一大旋風を巻き起こした伝説の芸人・永田キング。昭和十年前後に活躍したお笑い芸人の全貌に迫る。映画スチール、年表、出番表などの資料も収録。

2020/7./ 375p
978-4-86265-779-4
本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2020/09/05



暗黒の啓蒙書

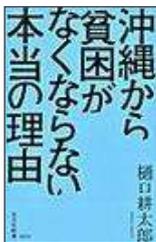
ニック ランド 著
講談社

民主主義と平等主義の欺瞞を暴け。資本主義を加速せよ。民主主義を棄て去り、資本主義を極限まで推し進め、この世界から<イグジット>するのでなければ、真の自由は獲得できない。現代思想の黒いカリスマによる啓蒙の書。

2020/5./ 269p
978-4-06-519703-5
本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2020/09/05



沖縄から貧困がなくなる本当の理由(光文社新書 1072)

樋口 耕太郎 著
光文社

優しい沖縄人、癒しの島...といわれる一方で、沖縄社会における自殺率、重犯罪、DV等の問題は、全国の他の地域を圧倒している。一見矛盾するこれらの問題が、沖縄でなぜ生じているのか、その本当の理由をわかりやすく論じる。

2020/6./ 250p
978-4-334-04479-4
本体 ¥900+税



朝日新聞 2020/09/05



ワイルドサイドをほっつき歩け～ハマータウンのおっさんたち～

ブレイディ みかこ 著
筑摩書房

恋と離婚、失業と抵抗。絶望している暇はない。英国ブライトン在住の著者が、EU 離脱、競争激化社会などの大問題に立ち上がる中高年について綴る。PR 誌『ちくま』掲載に、現代英国の世代、階級、酒事情の解説を加える。

2020/6./ 251p
978-4-480-81550-7
本体 ¥1,350+税



朝日新聞 2020/09/05



世紀の落球～「戦犯」と呼ばれた男たちのその後～(中公新書ラクレ 697)

澤宮 優 著
中央公論新社

大試合や大事な場面で落球した野球選手たちは、そこからどのように立ち上がったのだろうか。G.G.佐藤、加藤直樹、池田純一…。たった1つのプレーで人生を狂わされた男たちの「その後」を追う。

2020/8./ 190p
978-4-12-150697-9
本体 ¥800+税



朝日新聞 2020/09/05、産経新聞 2020/09/13



食えることと出すこと(シリーズケアをひらく)

頭木 弘樹 著
医学書院

食事と排泄という「当たり前」が当たり前でなくなったとき、世界はどう変わったのか。潰瘍性大腸炎に襲われた著者の闘病記。切実さの狭間に漂う不思議なユーモアが、何が「ケア」かを教えてくれる。テキストデータ引換券付き。

2020/8./ 316p
978-4-260-04288-8
本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2020/09/05、読売新聞 2020/09/13



文学こそ最高の教養である(光文社新書 1075)

駒井 稔、光文社古典新訳文庫編集部 著
光文社

フランス文学からギリシア哲学まで。新訳シリーズとして人気の「光文社古典新訳文庫」を立ち上げた駒井稔と、名翻訳者 14 名との語りナビゲートする古典文学入門。紀伊國屋書店新宿本店のイベントをもとに書籍化。

2020/7./ 597p
978-4-334-04482-4
本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/09/05、日本経済新聞 2020/09/12



16歳からはじめてのゲーム理論～“世の中の意思決定”を解き明かす 6.5 個の物語～

鎌田 雄一郎 著
ダイヤモンド社

経済学の中で最も重要である「ゲーム理論」の思考法を、ネズミ親子のストーリーで身につけることができる本。身近で分かりやすい「小さな社会」を舞台にした 6.5 個の物語と、詳しい解説を収録する。

2020/7./ 157p
978-4-478-11071-3
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/09/05、毎日新聞 2020/09/05



東京裏返し～社会学的街歩きガイド～(集英社新書 1033)

吉見 俊哉 著
集英社

上野、秋葉原、本郷、谷中…。今の東京から、過去の時間の豊かな痕跡を掘り返す。都心北部を 7 日間で巡る、知的興奮にあふれた旅。詳細地図つき。『すばる』連載を大幅に加筆修正。

2020/8./ 348p
978-4-08-721133-7
本体 ¥980+税



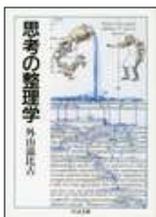
朝日新聞 2020/09/05、毎日新聞 2020/09/12



リヴァイアサン<1> 改訳(岩波文庫)

ホップズ、水田 洋 著
岩波書店
朝日新聞 2020/09/12

1954/2./ 386, 12p
978-4-00-340041-8
本体 ¥1,010+税



思考の整理学(ちくま文庫)

外山 滋比古 著
筑摩書房

アイデアを軽やかに離陸させ、思考をのびのびと飛行させる方法を、広い視野とシャープな論理で知られる著者が、明快に提示する。

1986/4./ 223p
978-4-480-02047-5
本体 ¥520+税



朝日新聞 2020/09/12



科学の人種主義とたたかう～人種概念の起源から最新のゲノム科学まで～

アンジェラ・サイニー 著

作品社

「白人は非白人より優れている」「黒人は高血圧になりやすい」...人種科学の?を暴く! 人種概念の起源、優生学の歴史をたどり、最新のゲノム科学とそれを巧みに利用する人種主義者の現状までも論じる科学ルポルタージュ。

2020/6./ 351p,39p

978-4-86182-810-2

本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2020/09/12



ミリタリー・カルチャー研究～データで読む現代日本の戦争観～

吉田 純 編

ミリタリー・カルチャー研究会 著

青弓社

2015?2016年に実施した、軍事や安全保障問題についての意識や関心を尋ねたインターネット調査の回答データを分析。現代日本のミリタリー・カルチャーの全体的な構造を、社会学・歴史学の立場から解明する。

2020/7./ 425p

978-4-7872-3469-8

本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2020/09/12



時代小説ザ・ベスト<2020>(集英社文庫 に15-5)

(公社)日本文藝家協会 編

川越 宗一、奥山 景布子、林 真理子、村木 嵐、蓑輪 諒、佐々木 功、矢野 隆、植松 三十里、大塚 卓嗣、青山 文平、浮穴 みみ 著

集英社

2019年度発行の文芸誌に掲載された作品群から精選した時代小説アンソロジー。北海道開拓に向かう旧尾張藩の男女を描く奥山景布子「太郎庵より」、林真理子の「西郷どん!」のスピノフ「仮装舞踏会」など11編を収録。

2020/6./ 482p

978-4-08-744131-4

本体 ¥980+税



朝日新聞 2020/09/12



ドキュメント強権の経済政策～官僚たちのアベノミクス 2～(岩波新書 新赤版 1833)

軽部 謙介 著

岩波書店

アベノミクスの展開ではだれがどう動いていたのか。「官邸一強」という権力構造はどう影響したのか。多数のキーマンへのインタビューや非公開資料をもとに、その内部の力学と変質の過程に迫る。

2020/6./ 7p,259p

978-4-00-431833-0

本体 ¥860+税



朝日新聞 2020/09/12



東京、コロナ禍。

柏書房

コロナウイルスの感染拡大によって激変した首都・東京。張り詰めた緊張感や異様さ、そしてそこに生きる市井の人びとの戸惑いや希望をフラットな視野で映し出す、コロナ時代の始まりをとらえた写真集。

2020/7./ 159p

978-4-7601-5261-2

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/09/12



雪旅籠(創元推理文庫 Mと7-2)

戸田 義長 著
東京創元社

やり手の同心戸田惣左衛門とその息子清之介。江戸から明治へと移り変わる時代の波に翻弄されながら、数々の事件に立ち向かい…。雪に閉ざされた旅籠での密室殺人事件の謎を解く表題作ほか全 8 編を収録。「恋牡丹」姉妹編。

朝日新聞 2020/09/12

2020:7./ 300p
978-4-488-43622-3
本体 ¥820+税



100文字SF(ハヤカワ文庫 JA 1431)

北野 勇作 著
早川書房

火星を目印にすれば複雑な路地を抜けて簡単に帰宅できると聞いてずっとそうしてきたのに、火星だとばかり思っていたあの赤い星が火星ではなく…。ほぼ100文字のSF小説200篇を収録。Twitterで発表した作品を文庫化。

朝日新聞 2020/09/12

2020:6./ 204p
978-4-15-031431-6
本体 ¥580+税



女だてら

諸田 玲子 著
KADOKAWA

漢詩人・原古処の娘、みちは、亡き父と病身の兄から託された密命のため、若侍に姿を変え、江戸へと向かう…。実在した漢詩人・原采蘋の数奇な半生と秋月黒田家お家騒動の内幕を描く。『小説野性時代』連載を加筆修正。

朝日新聞 2020/09/12

2020:7./ 418p
978-4-04-109422-8
本体 ¥1,800+税



香港の歴史～東洋と西洋の間に立つ人々～(世界歴史叢書)

ジョン・M・キャロル 著
明石書店

近年の民主化運動の昂揚により、返還前後以来の大きな注目を集めている香港。少年期を香港で過ごし、中英双方の資料を解読できる著者が、香港の通史を客観的、多角的に描く。

朝日新聞 2020/09/12

2020:8./ 433p
978-4-7503-5017-2
本体 ¥4,300+税



パスポートの発明～監視・シティズンシップ・国家～(サピエンティア)

ジョン・トーピー、藤川 隆男 著
法政大学出版局

国家が国民の移動手段を合法的かつ独占的に掌握するのに、決定的な役割を果たしたパスポート。その国際的なシステムの確立過程と現代的な意味を問い直す。

朝日新聞 2020/09/12

2008:11./ 324p
978-4-588-60304-4
本体 ¥3,200+税



中年格差

橋本 俊詔 著
青土社

就職氷河期の影響を全面にうけた世代が、いま大きな格差に直面している。しかしそれは決して特定の世代の問題ではない。中年世代の問題から日本社会のゆくすえを見通す。

朝日新聞 2020/09/12

2020:7./ 206p
978-4-7917-7295-7
本体 ¥1,800+税





戦の国(講談社文庫 う70-1)

沖方 丁 著
講談社

神にならなければ、通れぬ道がある-。桶狭間から大坂の陣まで、日ノ本が造られた動乱の時代を、織田信長、上杉謙信、明智光秀、大谷吉継、小早川秀秋、豊臣秀頼の六将の視点から描く。“戦国”を活写した連作短編集。

朝日新聞 2020/09/12

2020/8./ 402p
978-4-06-520628-7
本体 ¥780+税



「小さな大國」ニュージーランドの教えるもの～世界と日本を先導した南の理想郷～

東北公益文科大学ニュージーランド研究所 編
論創社

世界に先駆けた反核、行政改革、社会保障・福祉、女性の権利、子どもの保護、犯罪の福祉的処遇、文化・芸術・スポーツ…。多様なテーマを検証するニュージーランド研究の最先端。

朝日新聞 2020/09/12

2012/7./ 366p
978-4-8460-1152-9
本体 ¥2,500+税



BLの教科書

堀 あきこ／守 如子 編
有斐閣

男性同士の親密な関係や恋愛、性愛をテーマとした女性向けジャンル「BL(ボーイズラブ)」研究の入門書。50年の歴史を持つジャンルの、多様な研究枠組みを含んだ学問領域としてのBL研究を紹介する。

朝日新聞 2020/09/12

2020/7./ 17p,287p
978-4-641-17454-2
本体 ¥2,400+税



思考の整理学

外山 滋比古 著
筑摩書房

朝飯前の時間が大切、忘却の効用、収斂的思考と拡散的読書…。アイデアを軽やかに離陸させ、思考をのびのびと飛行させる方法を、広い視野とシャープな論理で知られる著者が明快に提示する。読みやすいワイド版。

朝日新聞 2020/09/12

2017/1./ 223p
978-4-480-01701-7
本体 ¥1,000+税



「街小説」読みくらべ

都甲 幸治 著
リットーミュージック

名作を「街縛り」で読んで、文豪と一緒に仮想街歩き! 室生犀星と古井由吉の金沢、村上春樹と坪内逍遙の早稲田など、25の小説に詰まった8つの都市の魅力に迫る。立東舎 web サイト連載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2020/09/12

2020/7./ 255p
978-4-8456-3498-9
本体 ¥2,200+税



ネクスト・シェア～ポスト資本主義を生み出す「協同」プラットフォーム～

ネイサン・シュナイダー 著
東洋経済新報社

テックカルチャーが企業や国家に代わる新しい社会を作る! さまざまな切り口から協同組合の事例や新しい試みを紹介し、ポスト資本主義を生み出す協同組合事業の意義や新たな可能性を提示する。

朝日新聞 2020/09/12、日本経済新聞 2020/09/12

2020/7./ 358p,27p
978-4-492-21242-4
本体 ¥2,600+税





科学化する仏教～瞑想と心身の近現代～(角川選書 640)

碧海 寿広 著
KADOKAWA

ときに対立し、ときに補い合う仏教と科学の歴史から、日本近代のいかなる姿が浮かび上がるのか。催眠術、念写、オウム、そしてマインドフルネス。宗教と現代人の危うい100年史を、気鋭の近代仏教研究者が描き出す。

2020/7./ 287p
978-4-04-703674-1
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2020/09/12、日本経済新聞 2020/09/12



地図とグラフで見る第2次世界大戦

ヴァンサン・ベルナル／ニコラ・オーバン 著
原書房

各国の一級資料を歴史家のアプローチで参照することで、利用可能な大量のデータを取り上げ、戦争の大きな流れをインフォグラフィックで視覚的に表現。私たちの知識を更新する「見たことのないような」第2次世界大戦の記録。

2020/5./ 195p
978-4-562-05758-0
本体 ¥8,000+税



朝日新聞 2020/09/13、読売新聞 2020/09/13



九州・沖縄の巨樹～遙かなるいのちの旅～

榊 晃弘 著
花乱社

九州・沖縄に現存する巨樹を尋ね歩いて十年。天変地異や戦争にも耐え、何百年、何千年と同じ場所に佇み、人々の喜怒哀楽をずっと見つめてきた歴史の証言者・巨樹。その千姿万態、それぞれの遙かなるいのちの旅を伝える写真集。

2020/7./ 126p
978-4-910038-18-6
本体 ¥4,000+税



朝日新聞 2020/09/13、読売新聞 2020/09/13



辰巳芳子ご飯と汁物～後世に伝えたい食べ物～

辰巳 芳子 著
NHK出版

日本人は米と大豆を失ってはならない。炊き込みご飯、混ぜご飯、すしといった「ご飯」。みそ汁、吸い物、かす汁などの「汁物」。日本の食を見つめ続けてきた辰巳芳子が、季節ごとのご飯と汁物を紹介し、その大切さを説く。

2020/7./ 127p
978-4-14-033310-5
本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2020/09/13、読売新聞 2020/09/13



活動の奇跡～アーレント政治理論と哲学カフェ～

三浦 隆宏 著
法政大学出版局

アーレントが見出した「活動」の奇蹟と、哲学カフェ実践の軌跡。哲学とその外を往還し、村上春樹と悪のモチーフ、建築や臨床の知の具体例から、「私たち」の感覚を取り戻し、思考なき全体主義を克服する道を探る。

2020/6./
18p,348p,12p
978-4-588-13030-4
本体 ¥3,400+税



朝日新聞 2020/09/19



閃光の記憶～被爆75年～

松村 明 著
長崎文献社

原爆は人間の「尊厳」を傷つけることはできなかった。毎日新聞社の報道カメラマンであった著者による、長崎の被爆者 53 人の肖像写真を収めた写真集。被爆者の生年、被爆地、被爆の瞬間、伝えたいメッセージ等も掲載する。

2020/7./ 135p
978-4-88851-338-8
本体 ¥3,300+税



朝日新聞 2020/09/19



日本語をどう書くか(角川ソフィア文庫 E116-1)

柳父 章 著
KADOKAWA

古来受け継がれてきた「話し言葉」と翻訳の必要によって作られた人工の「書き言葉」の二重構造、句読点や段落の切り方、文末語の変化が生み出すリズムや余韻…。日本文の書き方を、近代日本語の誕生から解き明かす文章読本。

2020/7./ 237p
978-4-04-400609-9
本体 ¥840+税



朝日新聞 2020/09/19



七人の侍ロケ地の謎を探る

高田 雅彦 著
アルファベータブックス

撮影スナップに写る風景や当時の航空写真、さらには現地調査による関係者の証言等から、「七人の侍」のロケ地を完全特定。二木てるみら出演者とスタッフが語る撮影現場の真実や、東宝秘蔵の未公開スチール写真も収録する。

2020/7./ 266p
978-4-86598-081-3
本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2020/09/19



野の詩人真壁仁～その表現と生活と実践と～

楠原彰 著
現代企画室

山形に生まれ、農を営みながら詩作に打ち込み、地域を学び、平和・教育運動に従事した真壁仁。時代状況に翻弄され、さまざまな挫折や蹉跌を経ながら、独自の詩世界に到達した不世出の農民詩人の生涯を論じる評伝。

2020/6./ 412p
978-4-7738-2003-4
本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2020/09/19



新型コロナウイルスと闘った、韓国・大邱の医療従事者たち

李 載泰 編
クオン

新型コロナウイルスの猛威に襲われた韓国、大邱。感染拡大を食い止めるため、韓国各地から医療従事者たちが集まった。その彼らが、生々しい現場の様子、使命感と恐怖の狭間で揺れる思い、第二波に向けての提言などを綴る。

2020/6./ 257p
978-4-910214-08-5
本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/09/19



私の箱子(シャンズ)(ちくま文庫 ひ 27-1)

一青 妙 著
筑摩書房

台湾人の父と日本人の母、そして妹。4人で暮らした思い出の家を取り壊すとき、段ボールの中から偶然見つかった「箱子(シャンズ)」。そっと覗き込むと「家族の記憶」が溢れ出した…。家族の絆をみずみずしい筆致で描く。

2020/8./ 311p
978-4-480-43686-3
本体 ¥800+税



朝日新聞 2020/09/19



アール・ブリュット湧き上がる衝動の芸術

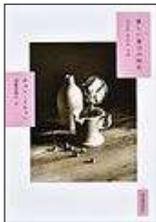
小林瑞恵 著
大和書房

美術の専門教育を受けていない人が独自の発想と方法で創造する芸術=アール・ブリュット。表現せずにはいられない日本作家 40 名の作品 270 点を、「いろ」「かたち」「そざい」といった 4 つの視点から紹介する。

2020/8./ 203p
978-4-479-39348-1
本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2020/09/19



優しい暴力の時代

チョン・イヒョン 著
河出書房新社

母と子、妻と夫、恋人...人々は親切に、礼儀正しく傷つけあう。人生に訪れた劇的な出会いを鮮やかに描く、現代韓国を代表するストーリーテラーによる珠玉の短編集。現代文学賞受賞「三豊百貨店」収録。

朝日新聞 2020/09/19

2020:8./ 278p
978-4-309-20804-6
本体 ¥2,200+税



グレイプフルーツ・ジュース

オノ・ヨーコ、南風椎 著
講談社
朝日新聞 2020/09/26

1993:10./ 101p
978-4-06-206301-2
本体 ¥1,456+税



AV女優<2> おんなのこ(文春文庫)

永沢 光雄 著
文芸春秋
朝日新聞 2020/09/26

2002:7./ 619p
978-4-16-749303-5
本体 ¥771+税



アメリカ合衆国史<4> グローバル時代のアメリカ 冷戦時代から21世紀(岩波新書 新赤版 1773)

古矢 旬 著
岩波書店

「アメリカの夢」を失った超大国は統御不能なグローバル化と和解困難な国内の分極化へ向かう。脱工業化を模索する70年代から、保守化と冷戦の終焉を生んだ80年代、グローバル化の光と影を体現する21世紀初頭までを描く。

朝日新聞 2020/09/26

2020:8./ 8p,322p,18p
978-4-00-431773-9
本体 ¥900+税



アメリカ合衆国史<2> 南北戦争の時代 19世紀(岩波新書 新赤版 1771)

貴堂 嘉之 著
岩波書店

「自由の帝国」を押し広げるアメリカを二分した未曾有の内戦。総力戦を予感させる激しい戦争、未完の戦後改革をへて、アメリカが「奴隷国家」から「移民国家」へと変貌した19世紀を描く。

朝日新聞 2020/09/26

2019:7./
18p,215p,19p
978-4-00-431771-5
本体 ¥840+税



がろあむし

舘野 鴻 著
偕成社

くずれた崖の奥底で、がろあむしの赤ちゃんが生まれた。がろあむしはまっくらな世界をかけまわり、やがて大きくなるとオスと出会い、たまごを産む。そして...。地下の暗黒世界に広がる宇宙と小さな虫の大きな一生を濃密に描く。

朝日新聞 2020/09/26

2020:9./ 40p
978-4-03-437080-3
本体 ¥2,000+税





還暦からの底力～歴史・人・旅に学ぶ生き方～(講談社現代新書 2568)

出口 治明 著

講談社

どうすれば「還暦からの底力」を発揮できるのか? 人生 100 年時代をパワフルに行動するためのポイントを、還暦でライフネット生命を開業し、古希で APU の学長に就任した著者が指南する。

朝日新聞 2020/09/26

2020:5./ 247p

978-4-06-514987-4

本体 ¥860+税



ベ平連とその時代～身ぶりとしての政治～

平井 一臣 著

有志舎

ベトナム戦争が激化し、高度成長まっただ中の 1965 年、ベ平連(ベトナムに平和を! 市民連合)は登場した。「身ぶり」を通して反戦を訴え、新しい政治空間を模索したベ平連の運動を現代史のなかから描き出す。

朝日新聞 2020/09/26

2020:7./ 5p,343p,6p

978-4-908672-41-5

本体 ¥2,800+税



25の短編小説(朝日文庫 し 48-2)

小説トリッパー編集部 編

朝日新聞出版

阿部和重、恩田陸、金原ひとみ、東山彰良…。最前線に立ち今を代表する人気作家 25 人が短編小説を競作。2020 年という時代の空気に想像力を触発され書かれた珠玉の 25 編を収録。『小説トリッパー』掲載をもとに文庫化。

朝日新聞 2020/09/26

2020:9./ 492p

978-4-02-264966-9

本体 ¥800+税



想起の文化～忘却から対話へ～

アライダ・アスマン 著

岩波書店

移民問題と右派台頭に揺れるドイツ。ホロコースト犠牲者の想起に向けられる不満や批判を、記憶文化論の第一人者が徹底的に検証し、出自や国境を越えた対話的想起の可能性を問う。人名索引付き。

朝日新聞 2020/09/26

2019:1./ 10p,265p,5p

978-4-00-023736-9

本体 ¥5,200+税



加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために～加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム講演録～

三浦 信孝、鷺巣 力 編

水声社

加藤周一の生誕 100 年を記念し、2019 年 9 月に開催された国際シンポジウム「加藤周一の知的遺産と世界の中の日本」「東アジアにおける加藤周一」での講演やパネルディスカッションなどを収録する。

朝日新聞 2020/09/26

2020:9./ 456p

978-4-8010-0513-6

本体 ¥6,000+税



ドイツ・パワーの逆説～<地経学>時代の欧州統合～

ハンス・クンドナニ、中村 登志哉 著

一藝社

経済力を武器に政治目標を実現する! 統一から 30 年、ヨーロッパ随一の“地経学”大国になったドイツはどこへ向かうのか。ドイツの地経学的な意味を探り、今後の可能性を鋭く示唆する。

朝日新聞 2020/09/26

2019:11./ 233p

978-4-86359-196-7

本体 ¥2,700+税





スイマー(teens' best selections 53)

高田 由紀子 著
ポプラ社

向井航、小学6年生。東京の強豪スイミングクラブで速くなることだけを目指して打ち込んできたが、挫折し水泳から遠ざかっていた。そんな時、引越した佐渡で海人たちと出会い…。十代の熱が水の中を疾走する、青春競泳小説。

朝日新聞 2020/09/26

2020:7./ 358p
978-4-591-16702-1
本体 ¥1,500+税



アメリカ合衆国史<3> 20世紀アメリカの夢(岩波新書 新赤版 1772)

中野 耕太郎 著
岩波書店

工業化と大衆社会化を迎えるなかで格差や貧困といった新しい問題に直面し、社会的な福祉国家=帝国と化した20世紀のアメリカ。ベトナム戦争とニクソン・ショックにより冷戦が変化する1970年代までを描く。

朝日新聞 2020/09/26

2019:10./
15p,244p,20p
978-4-00-431772-2
本体 ¥860+税



日本史の賢問愚問

中里 裕司 著
山川出版社

左大臣と右大臣はどちらが上? 応仁の乱の原因は? 原始・古代から近代・現代まで、日本史の75の疑問にこたえる。『歴史と地理』日本史部門掲載の質問コーナーから、選りすぐりの疑問と解答をまとめて単行本化。

朝日新聞 2020/09/26

2020:8./ 6p,160p
978-4-634-59305-3
本体 ¥1,500+税



法哲学はこんなに面白い

森村 進 著
信山社出版

思想史、人格の同一性、実定法学の基礎的問題など、日本を代表するリバタリアニズム研究の第一人者である著者の、法哲学者としての研究の幅と奥行きを示す。本当に面白い論文・書評17編を、各編に後記を付けて収録する。

朝日新聞 2020/09/26

2020:6./ 16p,343p,5p
978-4-7972-2796-3
本体 ¥5,000+税



樽とタタン(新潮文庫 な-106-1)

中島 京子 著
新潮社

小学校帰りに通った喫茶店。店の隅にはコーヒー豆の大樽があり、そこがわたしの特等席だった。樽に座り「タタン」とあだ名をつけられたわたしが、大人に混ざって聞いた話には沢山の“本当”と“?”があつて…。

朝日新聞 2020/09/26

2020:9./ 242p
978-4-10-102231-4
本体 ¥550+税



目の見えない私がヘレン・ケラーにつづる怒りと愛をこめた一方的な手紙

ジョージナ・クリーグ 著
フィルムアート社

常にヘレン・ケラーと比較されて育った視覚障害をもつ著者が、「奇跡の人」という偶像へ、怒りと意義申し立ての手紙をつづり…。資料にもとづいた事実から、ひとりの盲目の女性としてのヘレンの姿をよみがえらせる物語。

朝日新聞 2020/09/26

2020:8./ 413p
978-4-8459-1919-2
本体 ¥2,000+税





ほの暗い永久から出でて～生と死を巡る対話～(文春文庫 う 38-1)

上橋 菜穂子／津田 篤太郎 著
文藝春秋

人はなんのために生まれ、生きて、死ぬのか。作家が最愛の母の死を看取る日々の中で、聖路加国際病院の気鋭の医師と交わした往復書簡。未曾有のパンデミックに向き合う思い、未来への希望を綴った新章を追加。

朝日新聞 2020/09/26

2020.9./ 222p
978-4-16-791566-7
本体 ¥650+税



植民地から建国へ～19世紀初頭まで～(岩波新書 新赤版 1770)

和田 光弘 著
岩波書店

先住民の世界から植民地期、独立革命と憲法制定、そして新共和国としての試練まで、初期アメリカの歴史像を、大西洋史や記憶史の知見もふまえて提示する。最新の研究成果に基づくアメリカ合衆国の通史。

朝日新聞 2020/09/26

2019.4./
23p,224p,17p
978-4-00-431770-8
本体 ¥840+税



ドイツの新右翼

フォルカー・ヴァイス、長谷川 晴生 著
新泉社

戦後政治の優等生だったはずのドイツで起こった極右政党の躍進。その背景には何があるのか？ ながらく国民社会主義(ナチズム)などとは別扱いを受けていた一派「新右翼」を中心に、極右台頭の原因を明らかにする。

朝日新聞 2020/09/26

2019.1./ 465p
978-4-7877-1827-3
本体 ¥2,800+税



コロナ危機の経済学～提言と分析～

小林 慶一郎／森川 正之 著
日本経済新聞出版社

大恐慌以来ともいわれる経済ショック「コロナ危機」。どうすれば感染拡大を抑制しつつ、経済活動を維持できるのか？ 最適な政策とは？ 気鋭の経済学者たちがコロナ禍の実態を解明し、ポスト・コロナの経済・社会を展望する。

朝日新聞 2020/09/26

2020.7./ 379p
978-4-532-35861-7
本体 ¥2,500+税



「読む」って、どんなこと？(教養・文化シリーズ NHK 出版学びのきほん)

高橋 源一郎 著
NHK出版

誰もが学校で教わった「文章の読み方」。でも、それでは「読めない」ものがある？ 小説、詩、エッセイ、ノンフィクションなど、作家・高橋源一郎が好きな作品を読みながら、「読むきほん」を指南する。

朝日新聞 2020/09/26

2020.6./ 116p
978-4-14-407255-0
本体 ¥670+税



子どもの性欲の近代～幼児期の性の芽生えと管理は、いかに語られてきたか～

小泉 友則 著
松籟社

日本の近世後期?明治後期の医学・教育領域を中心に、子どもの性、とりわけ性的欲望・現象について、いかなる学的知識・認識が歴史的に存在し、それらがどのように学識者らに主張され、時代の変遷の中で変容したかを解明する。

朝日新聞 2020/09/26

2020.7./ 464p,30p
978-4-87984-391-3
本体 ¥4,200+税





村上水軍～その真実の歴史と経営哲学～

園尾 隆司 著

金融財政事情研究会

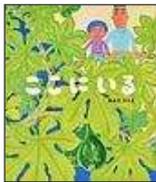
日本最大の海賊といわれる村上水軍の真実の歴史を、根拠となる史料・文献をできる限り詳細に示しながら解説。その中から見えてくる経営哲学についても説明する。

朝日新聞 2020/09/26

2020:8./ 10p,195p

978-4-322-13567-1

本体 ¥2,700+税



ここにいる

あおき ひろえ 著

廣済堂あかつき

畑仕事や庭の手入れが大好きだったおとうさん。わたしが大きくなって家を出て結婚すると、おとうさんはおじいちゃんになり…。おとうさんとわたしのたいせつな日々を描いた、人生が愛おしくなる絵本。

朝日新聞 2020/09/26

2020:7./ 30p

978-4-86702-046-3

本体 ¥1,500+税



西比利亜の印象

ミハイール・プリーシヴィン、岡田 和也 著

未知谷

北方、極東、西比利亜、中央亜細亜…。旅することが、詩であるような、プリーシヴィンの世界。過客の「私」を描いた表題作など、露西亜の自然の歌い手ミハイール・プリーシヴィンの作品全2編を収録する。

朝日新聞 2020/09/26

2020:6./ 127p

978-4-89642-613-7

本体 ¥1,500+税



本のリストの本

南陀楼 綾繁／書物蔵／鈴木 潤／林 哲夫／正木 香子 著

創元社

名曲喫茶に積まれていた本、記憶の中の父の本棚、獄中で読む本…。本を愛する5人の著者が、さまざまな時代、さまざまな場所に存在した「本のリスト」を、歴史や雑学や個人的な体験と共に紹介する。

朝日新聞 2020/09/26、産経新聞 2020/09/27

2020:8./ 287p,16p

978-4-422-93086-2

本体 ¥2,300+税



ふだん着の寺田寅彦

池内 了 著

平凡社

あきれほどの甘いもの好き。胃を悪くしてもやめられぬ煙草、コーヒー。子どもへの暑苦しいまでの心配癖…。寺田寅彦の背中を追ってきた宇宙物理学者が、彼の友人・家人らの回想録などをもとに、寅彦のとおきのおきの姿を描く。

東京・中日新聞 2020/09/06

2020:5./ 285p

978-4-582-83841-1

本体 ¥2,500+税



コロナ黙示録

海堂 尊 著

宝島社

新型コロナウイルスの襲来により、大混乱に陥った日本。雪見市救命救急センターでクラスターが発生し、速水晃一センター長はその対応に追われる。一方、東城大学医学部付属病院でクルーズ船感染者を引き受けることになり…。

東京・中日新聞 2020/09/06

2020:7./ 365p

978-4-299-00701-8

本体 ¥1,600+税





戦争と法

長谷部 恭男 著
文藝春秋

戦争の攻撃目標は相手の国家の社会契約、つまり憲法原理である。朝鮮戦争、フォークランド紛争、テロとの戦い等を取り上げ、近現代史における戦争のダイナミックな質的変容を、法の視点から浮き彫りにする。

2020:7./ 223p
978-4-16-391238-7
本体 ¥1,600+税



東京・中日新聞 2020/09/06



百年と一日

柴崎 友香 著
筑摩書房

地下街にはたいてい噴水が数多くあり、その地下の噴水広場は待ち合わせ場所で、何十年前も、数年後も、誰かが誰かを待っていた。人生と時間を描く新感覚物語集。『ちくま』連載に書き下ろしを加え書籍化。

2020:7./ 185p
978-4-480-81556-9
本体 ¥1,400+税



東京・中日新聞 2020/09/06、毎日新聞 2020/09/26、産経新聞 2020/09/27



国道3号線～抵抗の民衆史～

森 元齋 著
共和国/editorial republica

九州はなぜ「こう」なのか。彼女ら彼らはどのように抵抗し、反撥してきたのか。鹿児島西南戦争を起点に、水俣裁判、サークル村、筑豊炭鉱、米騒動、はては神話世界へと国道3号線を北上しながら、国家に抗う民衆の諸相を描く地誌的思想史。宮崎八郎、宮崎滔天、石牟礼道子、緒方正人、谷川雁、火野葦平らの群像から、《思想／運動としての九州》が浮上する。 装画: 田中千智

2020:8./ 272p
978-4-907986-73-5
本体 ¥2,500+税



東京・中日新聞 2020/09/13



「バカ」の研究

ジャン=フランソワ・マルミオン 編
亜紀書房

職場で、家庭で、社会で、ネットで、人はなぜバカなことをするのか? ノーベル賞経済学者やメディア戦略家、脚本家といった世界の知性が、その頭脳を駆使して「バカ」という謎に迫る。

2020:6./ 330p
978-4-7505-1650-9
本体 ¥1,600+税



東京・中日新聞 2020/09/13



靖国神社論

岩田 重則 著
青土社

神道でありながら、死者を祀るという鎮魂のありかたを誕生させた靖国神社。これまでにない祭祀のかたちはどこからきて、どのように錬磨されていったのか。近現代がつくりだした鎮魂の起源と思想の源流をたどる。

2020:8./ 637p,9p
978-4-7917-7294-0
本体 ¥4,400+税



東京・中日新聞 2020/09/13



町あかりの昭和歌謡曲ガイド

町 あかり 著
青土社

松田聖子「青い珊瑚礁」、小泉今日子「魔女」、キャンディーズ「待ちぼうけ」…。平成生まれながら昭和歌謡曲を愛する町あかりが、定番から知られざる一曲まで、リアルタイム世代も後追い世代も楽しめる名曲の数々を紹介する。

東京・中日新聞 2020/09/19

2020.8./ 165p
978-4-7917-7297-1
本体 ¥1,500+税



大江戸火龍改

夢枕 獯 著
講談社

桜の下で茶会を催していた大店のお内儀の身体が突然、持ち上がり、桜の花に隠れた。見上げる者たちに点々と血が降りかかり…。「万怪事相談」をなりわいとす麗しき男の事件簿。全4編を収録。『小説現代』ほか掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2020/09/20

2020.7./ 279p
978-4-06-520399-6
本体 ¥1,600+税



魯肉飯(ロパブ)のさえずり

温 又柔 著
中央公論新社

就活に失敗し、逃げるように結婚を選んだ桃嘉。優しい台湾人の母に祝福されるも、理想だった夫に<大切なもの>を一つひとつふみにじられていき…。『アンデル 小さな文芸誌』連載に加筆修正し単行本化。

東京・中日新聞 2020/09/20

2020.8./ 267p
978-4-12-005327-6
本体 ¥1,650+税



植物園の世紀～イギリス帝国の植物政策～

川島昭夫 著
共和国/editorial republica

近代のイギリスと植民地という問題において、植物園はいかに重要な役割をはたしたか。イギリスの植民地戦略を担った研究者やプラント・ハンターたちの姿を通して、現在では憩いの場として利用される植物園の起源を描き出す。

東京・中日新聞 2020/09/20、読売新聞 2020/09/27

2020.7./ 237p
978-4-907986-66-7
本体 ¥2,800+税



音楽を感じろ～デジタル時代に殺されていく音楽を救うニール・ヤングの闘い。～

ニール・ヤング/フィル・ベイカー 著
河出書房新社

自ら高音質プレイヤーを開発し、画期的なハイレゾ配信を始めたのはなぜか。ハイレゾポータブルプレイヤー「PONO」にまつわる回想録であり、鬼才音楽家ニール・ヤングが守ろうとする音楽とそれに関わる闘いの記録。

東京・中日新聞 2020/09/20、毎日新聞 2020/09/26

2020.8./ 309p
978-4-309-92205-8
本体 ¥3,000+税



俳句いまむかし

坪内 稔典 著
毎日新聞出版

同じ季語の句の「いまの俳句」と「むかしの俳句」を並べて読みくらべる俳句読本。古典から現代までの名句・秀句・ゆかいな句 400 句を取り上げ、それぞれの味わいと楽しみ方を伝える。『毎日新聞』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2020/09/26

2020.8./ 223p
978-4-620-32644-3
本体 ¥1,800+税





橋川文三 野戦攻城の思想

宮嶋 繁明 著
弦書房

丸山眞男、柳田国男、竹内好らの思想に接近し多くを学び、極めてオリジナリティの高い精神史を築いた思想家・橋川文三の後半生を描く。「橋川文三 日本浪漫派の精神」の続篇。『隣人』掲載をもとに書籍化。

東京・中日新聞 2020/09/27

2020.8./ 372p
978-4-86329-211-6
本体 ¥2,400+税



たった一人のオリンピック(角川新書 K-329)

山際 淳司 著
KADOKAWA

幻の五輪代表選手を描き、山際淳司のノンフィクション作家としての地位を不動のものにした表題作をはじめ、「回れ、風車」「ポール・ヴォルター」など、五輪にまつわる様々なスポーツの傑作短編を収録。

東京・中日新聞 2020/09/27

2020.8./ 287p
978-4-04-082386-7
本体 ¥900+税



言論の不自由 香港、そしてグローバル民主主義にいま何が起きているのか

ジェイソン・ソー 編
ジョシュア・ウォン 著

河出書房新社

なぜぼくらは動いたのか、香港はいったいどこへ行くのか。2014年に香港で起きた民主化運動「雨傘革命」を率いた若きリーダーが、世界中で危機に瀕する“民主主義”の行方を問う。

東京・中日新聞 2020/09/27、読売新聞 2020/09/27

2020.8./ 237p
978-4-309-24968-1
本体 ¥1,600+税



ぼくが戦争に行くとき～反時代的な即興論文～(中公文庫 て2-3)

寺山 修司 著
中央公論新社

「君の魂のゴミタメのなかにしか荒野は見いだされないことを、君は知っているのか？」寺山修司が混んとする日本社会と対峙。「ぼくの内なる戦場」からロマン・ロラン論、映画論、賭博論まで収録した随想集。

読売新聞 2020/09/06

2020.8./ 285p
978-4-12-206922-0
本体 ¥900+税



フードテック革命～世界 700 兆円の新産業「食」の進化と再定義～

田中宏隆／岡田亜希子／瀬川明秀 著
日経BP社

2025年までに世界 700 兆円に達すると言われる超巨大市場「フードテック」。植物肉&培養肉、ゴーストキッチン…。With&アフターコロナ時代の食の在り方を探索し、世界最先端のフードビジネスを徹底解説する。

読売新聞 2020/09/06

2020.7./ 399p
978-4-296-10671-4
本体 ¥1,800+税



京アニ事件(平凡社新書 948)

津堅 信之 著
平凡社

36名が死亡するという、史上最悪の放火事件となった「京アニ事件」。この事件は何をあらわにしたのか。アニメ史を専門とする研究者が、独自の視点から事件の深層を読み解く。

読売新聞 2020/09/06

2020.7./ 205p
978-4-582-85948-5
本体 ¥820+税





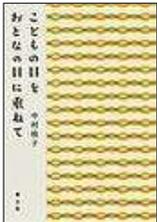
赤い砂を蹴る

石原 燃 著
文藝春秋

お母さん、聞こえる？ 私は、生きていくよ-。幼くして死んだ弟。心ない世間の声に抗い、それでも自由に生きた母。ブラジルの大地に舞い上がる赤い砂に、母と娘のたましいの邂逅を描く。『文學界』掲載を単行本化。

読売新聞 2020/09/06

2020/7./ 158p
978-4-16-391236-3
本体 ¥1,400+税



こどもの目をおとなの目に重ねて

中村 桂子 著
青土社

こどもの視線でのぞいてみれば-。「生命誌」を提唱する著者が、競争第一で発展に突き進み、息づまる社会をやわらかな感性で問い返す。『中日新聞』を中心に新聞・雑誌等の掲載記事を単行本化。

読売新聞 2020/09/06

2020/8./ 198p
978-4-7917-7304-6
本体 ¥1,800+税



仮想通貨 vs. 中央銀行～アフター・ビットコイン 2～

中島 真志 著
新潮社

デジタル通貨を巡る動きは、民間企業、民間銀行、中央銀行の 3 者が覇権を争ってしのぎを削る状態となった。どの主体が覇権を握っていくのか、それが経済活動や社会生活にどのような変化をもたらすのかを考察する。

読売新聞 2020/09/06

2020/6./ 282p
978-4-10-351282-0
本体 ¥1,600+税



パトリックと本を読む～絶望から立ち上がるための読書会～

ミシェル・クオ 著
白水社

もともと才能のあった教え子が罪を犯した。教え子パトリックとの面会のため拘置所に通う教師で法学生のミシェル。ともに本を読むことで、貧困からくる悪循環にあえぐ青年の心に寄り添おうとする。自己発見と他者理解の記録。

読売新聞 2020/09/06

2020/5./ 393p
978-4-560-09731-1
本体 ¥2,600+税



余生と厭世

アネ・カトリーネ・ポーマン 著
早川書房

引退を決めた老精神科医の最後の新患は、希死念慮に苦しむ女性だった。カウンセリングを重ねる中で、老精神科医は自らの人生と、近づく老いや死に対する恐怖を見つめ直し…。デンマーク人臨床心理士が、孤独な魂の交流を描く。

読売新聞 2020/09/06

2020/6./ 151p
978-4-15-209950-1
本体 ¥2,300+税



僕のアルバム

植田 正治、仲田 薫子 著
求竜堂

好きなものしか撮らない夫のモデルとなり、好きなことしかしない夫を影で支え、それが幸せだった…。植田正治の没後発見されたネガの束より編纂した、妻・紀枝を被写体とした1935?50年代の未発表写真を収録。

読売新聞 2020/09/06

2007/12./ 1冊(ページ付なし)
978-4-7630-0729-2
本体 ¥2,300+税





柳生十兵衛死す〜山田風太郎傑作選 室町篇〜<上>(河出文庫 や 4-14)

山田 風太郎 著
河出書房新社

山城国木津川の河原で柳生十兵衛の亡骸が発見された。天下無敵の剣豪を斬った人間は、果たして何者か? そしてなぜ閉じているはずの片目が開いているのか? 江戸慶安と室町を舞台に、二人の柳生十兵衛の活躍と最期を描く。

2020.8./ 395p
978-4-309-41762-2
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/09/06



柳生十兵衛死す〜山田風太郎傑作選 室町篇〜<下>(河出文庫 や 4-15)

山田 風太郎 著
河出書房新社

時を超えて入れ代わった二人の柳生十兵衛。後水尾法皇と足利義満の大陰謀に立ち向かうなか、その剣技は極まり、驚愕のラストへ…。『柳生忍法帖』『魔界転生』に続く十兵衛3部作の最終作、そして山田風太郎最後の長篇。

2020.8./ 405p
978-4-309-41763-9
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/09/06



マスコミ用語担当者がつくった使える!用字用語辞典〜 CONTEMPORARY JAPANESE STYLE〜

前田 安正 著
三省堂

執筆・編集・校閲などに役立つ用字用語辞典。文章を書いたり直したりするときに判断に悩む事例を中心に、新聞や放送の表記ルールを示す。必要と思われる語にはアクセント記号を付すほか、カタカナ語・固有名詞も多数掲載。

2020.7./ 792p,97p
978-4-385-13656-1
本体 ¥2,300+税



読売新聞 2020/09/06



吉原の舞台裏のウラ〜遊女たちの私生活は実は○○だった?〜(朝日文庫 な 47-4)

永井義男 著
朝日新聞出版

女を鑑定する専門職「女術」とは? 「二階で小便」の意味は? 江戸時代の吉原の遊郭の実態を覗きつつ、繁栄の裏に隠された遊女の実像や当時の大衆文化に迫る。春画も多数収録。『BEST TIMES』連載を書籍化。

2020.8./ 296p
978-4-02-262021-7
本体 ¥720+税



読売新聞 2020/09/06



パワースピーチ入門(角川新書 K-326)

橋爪 大三郎 著
KADOKAWA

人びとを鼓舞する良いスピーチ、落胆させる駄目なスピーチの違いとは? 当代随一の社会学者が、福澤諭吉、チャーチルからクオモ NY 州知事まで、世界と日本の事例を読み解き、人の心を動かし導く言葉の技法を明らかにする。

2020.7./ 301p
978-4-04-082381-2
本体 ¥900+税



読売新聞 2020/09/06



時間

エヴァ・ホフマン 著
みすず書房

人間にすべての意味を与えるのは時間である。時間に対する万能感と人間的な時間への軽視に警鐘を鳴らし、AI の時代に人間はどう生きるべきかを問いかける。ホロコースト第2世代の作家が描く根源的かつアクチュアルな書。

2020.6./ 185p,12p
978-4-622-08909-4
本体 ¥4,000+税



読売新聞 2020/09/06



特捜部 Q<[7-1]> 自撮りする女たち(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 385-13)

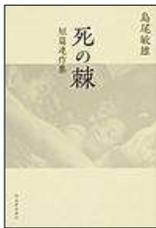
ユッシ・エーズラ・オールスン、吉田 奈保子 著
早川書房

数々の未解決事件の謎を暴いてきた特捜部 Q が、予算不足により解散の危機に! そのさなか、最近起きた老女撲殺事件が未解決の女性教師殺害に酷似しているとの情報が入り、カールは現在進行中の事件の捜査に乗り出すが...

2019:11./ 374p
978-4-15-179463-6
本体 ¥860+税



読売新聞 2020/09/06



死の棘~短篇連作集~

島尾 敏雄 著
河出書房新社

精神を病んだ妻と、その原因となった罪障を抱えた作家との日常生活の修羅場を描く私小説の極北。長篇版より早い時期に書かれた作品からなる短篇集版。

2017:11./ 267p
978-4-309-02625-1
本体 ¥2,200+税



読売新聞 2020/09/06



殿、それでは戦国武将のお話をいたしましょう~貝原益軒の歴史夜話~

山崎 光夫 著
中央公論新社

戦国時代のエピソードが満載されている貝原益軒著「朝野雑載」。そこに記された戦国武将に関する逸話を素材として、益軒が福岡藩第三代藩主・黒田光之に千夜一夜物語風に語り聞かせる形式に仕立てた「戦国コント(小話)集」。

2020:5./ 364p
978-4-12-005308-5
本体 ¥1,700+税



読売新聞 2020/09/06



私の知らない母

笠木 絵津子 著
クレオ

戦前の東アジア(朝鮮・台湾・満洲・日本)に生きた著者の母の半生を、古い家族写真と現地で撮影した現在の写真を交錯させて描いた、母の昭和と著者の平成が交錯する作品集。京大名誉教授・山室信一の寄稿なども掲載。

2019:11./ 130p
978-4-87736-149-5
本体 ¥9,000+税



読売新聞 2020/09/06



愛犬の日本史~柴犬はいつ種と呼ばれなくなったか~(平凡社新書 950)

桐野 作人/吉門 裕 著
平凡社

日本人は犬をどう愛してきたか? 犬はどう応えたか? 「秘蔵の犬」をめぐる 20 年戦争(薩摩島津家)、西郷隆盛の犬連れ狩猟、明治天皇の狆など、知られざる愛犬の歴史を明かす。

2020:7./ 302p
978-4-582-85950-8
本体 ¥960+税



読売新聞 2020/09/06



特捜部 Q アサドの祈り(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 1957)

ユッシ・エーズラ・オールスン 著
早川書房

浜辺に打ち上げられた難民の老女の遺体。彼女の写真を見たアサドは慟哭し、特捜部 Q に自らの壮絶な過去を告白する。一方、Q には若い男からの殺人予告の電話がかかってきた。男が凶行にいたるまえに所在を突き止めようと...

2020:7./ 587p
978-4-15-001957-0
本体 ¥2,100+税



読売新聞 2020/09/06



戦国大名の経済学(講談社現代新書 2575)

川戸 貴史 著

講談社

兵士の装備一式 70 万円、鉄炮 1 挺 50 万?60 万円、1 回の合戦の費用、縮めて 1 億円! 戦争の収支、戦国大名の収入、鉱山開発や城下町、税制改革など、経済という視点から戦国時代の日本を読み解く。

読売新聞 2020/09/06

2020.6./ 286p

978-4-06-520015-5

本体 ¥1,000+税



特捜部 Q<[7-2]> 自撮りする女たち(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 385-14)

ユッシン・エーズラ・オールスン、吉田 奈保子 著

早川書房

補助金を不正受給する女たちへの憎悪から、ソーシャルワーカーのアネリは轢き逃げ計画を実行する。一方、新旧双方の事件の関連性を捜査するカールとアサドだが...。同時進行するバラバラの事件に Q はどう立ち向かうのか?

読売新聞 2020/09/06

2019.11./ 349p

978-4-15-179464-3

本体 ¥860+税



事件持ち

伊兼 源太郎 著

KADOKAWA

報日新聞の若手記者・永尾哲平は、千葉県下で起きた猟奇的な連続絞殺事件の取材を始める。捜査情報をつかめずに苛立つ記者クラブは県警批判を開始。犯人逮捕の手がかりを得られない県警は、報日新聞にある取引を持ち掛け...

読売新聞 2020/09/06

2020.5./ 325p

978-4-04-109312-2

本体 ¥1,700+税



影を呑んだ少女

フランシス・ハーディング 著

東京創元社

幽霊を憑依させることのできる体質の少女メイクピース。母亡きあと少女が引き取られた父方の一族は、恐ろしい秘密を抱えていて...。17 世紀英国を舞台に、逞しく生きる少女の姿を描く歴史ファンタジー。

読売新聞 2020/09/06

2020.6./ 443p

978-4-488-01101-7

本体 ¥3,300+税



久恒啓一図解コミュニケーション全集<1> 原論編(コミュニティ・ブックス)

久恒 啓一 著

日本地域社会研究所

知的生産の技術の柱である「図解」の体系化と深化にライフワークとして取り組んできた、久恒啓一の集大成。1 は、「コミュニケーションのための図解の技術」など、図解コミュニケーションの「原論」にかかわる書籍を収録する。

読売新聞 2020/09/12、日本経済新聞 2020/09/12

2020.8./ 557p

978-4-89022-263-6

本体 ¥3,500+税



ヴェニス商人 [改版](新潮文庫)

シェイクスピア、福田 恒存 著

新潮社

読売新聞 2020/09/13

1987.1./ 169p

978-4-10-202004-3

本体 ¥400+税





驚愕!竹島水族館ドタバタ復活記～水の泡とは消えたくない!～

小林 龍二 著
風媒社

「古い、汚い、金はなし」の地方の小さな水族館。でも、全くダメだからこそできることがいっぱいあって…。スタッフとともに様々な改革を行い、入館者数の V 字回復をみせた愛知県蒲郡市・竹島水族館の館長が綴る復活物語。

2020/7./ 168p
978-4-8331-1559-9
本体 ¥1,200+税



読売新聞 2020/09/13



実験哲学入門

鈴木 貴之 編
勁草書房

2000 年以降の分析哲学における最も重要な研究動向の 1 つである実験哲学。代表的な研究を紹介し、実験哲学とはどのような営みであり、どのような意義を持つのかを明らかにする。

2020/6./ 8p,201p
978-4-326-10282-2
本体 ¥2,700+税



読売新聞 2020/09/13



おおきな木

シェル・シルヴァスタイン、村上 春樹 著
あすなろ書房

いつでもそこにあるりんごの木。成長し変わっていく少年。それでも木は、少年に惜しみなく愛を与え続けた?。世界で読み継がれているロングセラー絵本を村上春樹が新訳。

2010/9./ 1冊(ページ
付なし)
978-4-7515-2540-1



読売新聞 2020/09/13



肉とすっぽん～日本ソウルミート紀行～

平松 洋子 著
文藝春秋

うまい肉が生まれる現場にはソウルがある! 害獣を地域の恵みに変えた島根県美郷町モデル、馬肉文化を守り抜いた熊本への挑戦...それぞれの土地で培われた「知恵と技」を紹介。“食の未来図”をまるごと味わうノンフィクション。

2020/7./ 266p
978-4-16-391223-3
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/09/13



いのち

瀬戸内 寂聴 著
講談社

ガンと心臓の病に襲われ、痛切な老いに直面した私。脳裏に蘇るのは、70 年近い作家人生で出会った男たちと、筆を競った友の死に様だった-。小説への愛と修羅を生きた女の鮮烈な<いのち>を描く。『群像』掲載を単行本化。

2017/12./ 253p
978-4-06-220878-9
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/09/13



クワバカ～クワガタを愛し過ぎちゃった男たち～(光文社新書 1080)

中村 計 著
光文社

クワガタを愛し過ぎて、人生を賭してしまった「クワバカ」。ハブに咬まれても採集をやめない男、採集のためにインドネシアへ移住した世界的コレクターなど、少年時代を想起させる不思議な男たちの人生を生き生きと描く。

2020/8./ 247p
978-4-334-04487-9
本体 ¥940+税



読売新聞 2020/09/13



小さなことで感情をゆさぶられるあなたへ(PHP 文庫 お 83-2)

大嶋 信頼 著
PHP研究所

どうして、ちょっとしたことで感情がゆさぶられるの? 「感情は周りの人によって作られている幻想である」という切り口で、「感情をゆさぶられやすい」をなくす方法をわかりやすく紹介する。

2020.8./ 253p
978-4-569-90073-5
本体 ¥740+税



読売新聞 2020/09/13



全 47 都道府県幸福度ランキング<2020 年版>

(一財)日本総合研究所/日本ユニシス株式会社総合技術研究所 編
東洋経済新報社

どの県がいちばん幸せか? 全 47 都道府県を、「財政健全度」「エネルギー消費量」など 75 指標で徹底比較。20 政令市・48 中核市ランキング、特別分析「ポストコロナにおける地域の幸福」も収録する。

2020.9./ 18p,305p
978-4-492-21244-8
本体 ¥3,600+税



読売新聞 2020/09/13



ドイツ現代史の正しい見方(草思社文庫 ハ1-2)

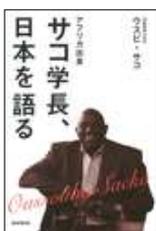
セバスチャン・ハフナー 著
草思社

ヒトラーの権力掌握は歴史の必然だったのか? 第二次世界大戦が起こった本当の理由とは? ドイツ史の分岐点となった瞬間について「もしもあのとき、こうしていたら」を再検証した、ドイツ現代史のポイントが一冊でわかる本。

2020.8./ 286p
978-4-7942-2465-1
本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/09/13



アフリカ出身サコ学長、日本を語る

ウスビ・サコ 著
朝日新聞出版

マリ共和国から中国を経て日本へ。京都精華大学長ウスビ・サコが、波瀾万丈な人生をコミカルにふり返るとともに、日本のあり方、日本人の生き方を鋭く問う。内田樹の解説付き。

2020.7./ 223p
978-4-02-331880-9
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/09/13



自由主義の危機～国際秩序と日本～

船橋 洋一/G・ジョン・アイケンベリー 著
東洋経済新報社

安倍政権下での政策を分析・評価し、日本がアジア太平洋地域における自由で開かれた国際秩序の維持と改革へ向けてどう取り組むべきかを示す。外交政策と国内政治の両面から現状を分析・考察し、日本の役割を具体的に提案する。

2020.8./ 17p,410p
978-4-492-44458-0
本体 ¥3,000+税



読売新聞 2020/09/13



苦しい時は電話して(講談社現代新書 2581)

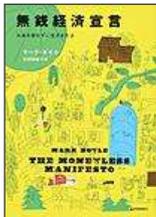
坂口 恭平 著
講談社

死にたいほどつらい時、人は何をしたらよいのか? 躁鬱病を患う著者が、「死にたい人」からの電話を 10 年受け続けてわかったことを綴るとともに、死にたいと感じたときの対処の仕方を考える。

2020.8./ 206p
978-4-06-520776-5
本体 ¥800+税



読売新聞 2020/09/13



無銭経済宣言～お金を使わずに生きる方法～

マーク・ボイル、吉田 奈緒子 著

紀伊國屋書店出版部

自然界や地域社会とのつながり、生の実感、持続可能な地球をとりもどすための新しい経済モデルを提起した、フリーエコノミー運動創始者による「カネなしマニフェスト」。貨幣経済によらない生活のノウハウも多数紹介。

2017:8./ 494p

978-4-314-01150-1

本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/09/13



日米同盟を考える～<共同体>の幻想の行方～

浅海保 著

作品社

世界の秩序が大きく変わろうとしている今、日本の外交、安全保障政策、中でも日米同盟はどうあるべきか。戦後の歴史局面、それを担った人々の想い、迷い、決断等を最前線で見えてきた著者が、その歩みと舞台裏、これからを描く。

2020:7./ 314p

978-4-86182-802-7

本体 ¥2,600+税



読売新聞 2020/09/13



7人の名探偵～新本格 30周年記念アンソロジー～(講談社文庫 あ 52-29)

綾辻 行人／歌野 晶午／法月 綸太郎／有栖川 有栖／我孫子 武丸／山口 雅也
／麻耶 雄嵩 著

講談社

世界は謎解きに満ちている! 綾辻行人、歌野晶午、法月綸太郎、有栖川有栖、我孫子武丸…。7人のレジェンド作家たちが「名探偵」をテーマに書き下ろした7編の物語を収録する。

2020:8./ 440p

978-4-06-520043-8

本体 ¥820+税



読売新聞 2020/09/13



贈与論～他二篇～(岩波文庫 34-228-1)

マルセル・モース 著

岩波書店

贈与や交換は、社会の中でどのような意味を担っているのか。古今東西の贈与体系を比較し、その全体的社会的性格に迫る。「トラキア人における古代的な契約形態」「ギフト、ギフト」の2編も収録。

2014:7./ 489p

978-4-00-342281-6

本体 ¥1,200+税



読売新聞 2020/09/13



次郎物語<3>(岩波文庫 緑 225-3)

下村 湖人 著

岩波書店

朝倉先生が主宰する白鳥会に入会し、人生を深く考えるようになる次郎。筑後川上流探検、宝鏡先生とのトラブル、実父が営む酒屋の番頭の不始末などのエピソードを通して、急激な精神的成長をとげる次郎の姿をつぶさに描く。

2020:7./ 255p

978-4-00-312253-2

本体 ¥640+税



読売新聞 2020/09/13



臆病な都市

砂川 文次 著

講談社

鳥の不審死から始まった新型感染症の噂。首都庁に勤める K は、その渦中に巻き込まれ…。新型感染症をめぐる組織の不条理、怖れと善意の暴走。新型コロナウイルス感染拡大の前に書かれた、新鋭による問題作。『群像』掲載を単行本化。

2020:7./ 154p

978-4-06-520429-0

本体 ¥1,550+税



読売新聞 2020/09/13



山手線ものがたり～全 30 駅の今昔風景の記憶～(旅鉄 BOOKS 028)

南 正時 著
山と溪谷社

鉄道写真家・南正時がおよそ 50 年に渡って歩き、撮影をし続けてきた山手線の駅。30 番目の「高輪ゲートウェイ」まで、ひと駅ひと駅の記憶を紐解き、駅の歴史、文化、風景などの“ものがたり”を綴る。

2020/7./ 158p
978-4-635-82238-1
本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/09/13



1964 東京ブラックホール

貴志 謙介 著
NHK出版

東京五輪が開催され、高度成長の象徴として語られる 1964 年。その実態はどうだったのか。膨大な記録映像と史資料から見えてきたのは、貧困拡大、人命軽視、首都圏の「闇」だった…。NHK スペシャルを書籍化。

2020/6./ 301p
978-4-14-081823-7
本体 ¥1,700+税



読売新聞 2020/09/13



キネマの玉手箱

大林 宣彦 著
ユニコ舎

病と闘う者として、自主映画の作家として、敗戦国の軍国少年として、未来を生きる人として…。余命半年を宣告された映画作家の人生哲理。「大林宣彦のいつか見た映画館・特選クラシックシネマ」も収録する。

2020/4./ 205p
978-4-9911368-0-1
本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/09/13



「これからの世界」を生きる君に伝えたいこと

ウスビ サコ 著
大和書房

不確実で多様な社会で自分の“変化”を恐れるな。日本の大学初のアフリカ系学長が、学び、働き方、コミュニケーションなど、「これからの世界」を生きていく上でのヒントを、自身の経験をもとに語る。

2020/6./ 198p
978-4-479-79731-9
本体 ¥1,400+税



読売新聞 2020/09/13



ひきこもれ～ひとりの時間をもつということ～ 新装版(SB新書 519)

吉本隆明 著
SBクリエイティブ

「ひきこもり」はよくない。ひきこもっている奴は、なんとかして社会に引っ張り出したほうがいいのかという考えに、ぼくは到底賛同できない。思想界の巨人・吉本隆明が、孤独、コミュ障、いじめ、才能について論じる。

2020/9./ 168p
978-4-8156-0458-5
本体 ¥860+税



読売新聞 2020/09/20



カネと共に去りぬ(新潮文庫 <-52-3)

久坂部 羊 著
新潮社

ある朝、目を覚ますと、ベッドの上で自分の心が巨大な毒虫のように変わっていて…。文豪の名作を換骨奪胎し、現代医療の問題を鋭く抉る。「変心」をはじめ全 7 編を収録。

2020/8./ 368p
978-4-10-120343-0
本体 ¥670+税



読売新聞 2020/09/20



森瑤子の帽子(幻冬舎文庫 し-46-1)

島崎 今日子 著
幻冬舎

スノッパな女として生きた作家・森瑤子は、何のために書き続けたのか。五木寛之、山田詠美ら数多の証言から、成功を手にした女の煌めきと孤独、彼女が駆け抜けたバブル時代を照射する。

読売新聞 2020/09/20

2020.8./ 470p
978-4-344-43008-2
本体 ¥830+税



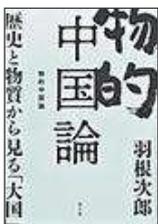
武漢日記～封鎖下 60 日の魂の記録～

方方 著
河出書房新社

身近な人が次々と死んでいく悲惨な状況、食料品やマスクの不足、医療現場の疲弊と焦燥…。新型コロナウイルス蔓延による 1100 万都市・武漢の完全封鎖の中で実情を綴った魂の記録。

読売新聞 2020/09/20

2020.9./ 317p
978-4-309-20800-8
本体 ¥1,600+税



物的中国論～歴史と物質から見る「大国」～

羽根次郎 著
青土社

中華思想、情報統制、一帯一路といった自由や民主主義の極北として描く認識からは、「大国」の根底をなす原理は理解できない。中国語で考え、歴史に誠実に向き合い、その物質的次元から考える、新しい現代中国論。

読売新聞 2020/09/20

2020.7./ 409p
978-4-7917-7296-4
本体 ¥2,600+税



果てまで走れ!157カ国、自転車で地球一周 15万キロの旅(河出文庫 お39-1)

小口 良平 著
河出書房新社

インドネシアで遭遇した交通事故、イランでの強盗被害、凍死寸前の東欧、死線をさまよった南米、そして旅の最終地点・ニューヨークへ…。世界中を走って、世界中の人たちと触れ合った、約8年半の自転車旅のすべてを綴る。

読売新聞 2020/09/27

2020.8./ 221p
978-4-309-41766-0
本体 ¥780+税



どんぐり姉妹(新潮文庫 よ-18-31)

よしもと ばなな 著
新潮社

たわいない話で、気持ちを楽にしませんか? 苦しい時間を、手をとりあって生きてきた姉どん子と妹ぐり子。2人は、お悩み相談サイト「どんぐり姉妹」で小さな想いを受けとめる。ことばとイメージが奏であう、心を温める物語。

読売新聞 2020/09/27

2013.8./ 158p 図版
12p
978-4-10-135942-7
本体 ¥630+税



学力格差を克服する(ちくま新書 1511)

志水 宏吉 著
筑摩書房

学力低下論争への考察を皮切りに、学力格差の実態を考察。「学力保障」をカギとして、「効果のある学校」「力のある教育委員会」の実例を紹介し、学力格差克服の方法を探り、学校、公教育の進むべき道を示唆する。

読売新聞 2020/09/27

2020.8./ 253p
978-4-480-07332-7
本体 ¥840+税





京都発・庭の歴史

今江 秀史 著
世界思想社

京都御所、天龍寺、桂離宮、円山公園…。文化財保護に長年携わってきた哲学研究者が、平安から現代までの千年の庭の歴史をガイド。見た目や美しさだけではなく、知られざる使われ方に注目し、庭の本性を浮き彫りにする。

読売新聞 2020/09/27

2020:7./ 5p,220p
978-4-7907-1743-0
本体 ¥2,400+税



人生に必要な知恵はすべてホンから学んだ(朝日新書 776)

草刈正雄 著
朝日新聞出版

台本は、生きる知恵と人生の意味を教えてくれる言葉の宝庫。俳優・草刈正雄が、「真田丸」「なつぞら」をはじめとする代表作の名台詞と共に、半生を語る。

読売新聞 2020/09/27

2020:8./ 209p
978-4-02-295086-4
本体 ¥790+税



卓球王水谷隼終わりなき戦略～勝つための根拠と負ける理由～

水谷 隼 著
卓球王国

卓球王・水谷隼の頭の中を文字化した一冊。地球上最速の対人競技である卓球の面白さ、楽しさ、奥深さから、勝つためのロジックとプロセスまでを書き記し、「水谷の卓球」の真髄を伝える。

読売新聞 2020/09/27

2020:8./ 253p
978-4-901638-58-6
本体 ¥1,700+税



カーテンコール!(新潮文庫 か-90-1)

加納 朋子 著
新潮社

閉校が決まった私立萌木女学園。単位不足の生徒たちを卒業させるべく、半年間の特別補講合宿が始まった。寮生活の中で、彼女たちが抱えていたコンプレックスや、学業不振に陥った意外な原因が明らかになっていき…。

読売新聞 2020/09/27

2020:9./ 338p
978-4-10-102251-2
本体 ¥630+税



カブールの園(文春文庫 み 60-1)

宮内 悠介 著
文藝春秋

米国に住む日系三世の玲は、小学校で苛められた凄絶な記憶と、二世の母との関係に苦しんでいた。祖父母のいた強制収容所の跡を訪れた玲は問う-「わたしたちの世代の最良の精神」はどこにある? 「半地下」併録。

読売新聞 2020/09/27

2020:1./ 233p
978-4-16-791423-3
本体 ¥690+税



女たちの本能寺(祥伝社新書 610)

楠戸 義昭 著
祥伝社

本能寺の変は、光秀と信長を取り巻く一族の女たちの運命をどう変えたのか。彼女たちの知られざる側面と、一次史料から分かった真実とは。濃姫、細川ガラシャ、春日局など、歴史に翻弄された7人の女たちの人生を追う。

読売新聞 2020/09/27

2020:9./ 227p
978-4-396-11610-1
本体 ¥860+税





おとなになるのび太たちへ～人生を変える『ドラえもん』セレクション～

小学館

夢をかなえたおとなたちが、「ドラえもん」を通じて伝えたいことは? e スポーツプレイヤー・梅原大吾、声優・梶裕貴、俳優・菅田将暉…。憧れの職業についている 10 人のおとなによる「ドラえもん」セレクション。

読売新聞 2020/09/27

2020.9./ 204p

978-4-09-227227-9

本体 ¥1,400+税



レベル4/致死性ウイルス(ハヤカワ文庫 NF 563)

ジョーゼフ・B・マコーミック/スーザン・フィッシャー＝ホウク 著

早川書房

有効な治療法のない、最も危険なレベル 4 ウイルスがアフリカで猛威をふるい…。米 CDC(疾病予防管理センター)の医師とその妻が語る、30 年に渡るウイルスとの死闘の記録。コロナ禍に寄せた序文も収録。

読売新聞 2020/09/27

2020.9./ 494p

978-4-15-050563-9

本体 ¥1,220+税



番号は謎(新潮新書 873)

佐藤 健太郎 著

新潮社

郵便番号はどう決まる? 交響曲マイナス1番とは? バーコード、ISBN、原子番号…私達を取り囲む数々の番号の起源から裏事情までを徹底調査。奥深く不思議な番号の世界を案内する。『新潮 45』連載に書き下ろしを追加。

読売新聞 2020/09/27

2020.8./ 235p

978-4-10-610873-0

本体 ¥780+税



京都に女王と呼ばれた作家がいた～山村美紗とふたりの男～

花房 観音 著

西日本出版社

歴史と情念、ミステリアスな京都の横顔は、山村美紗の小説とドラマ化された作品からきていると言っても過言ではない。京都に住み、京都の女を描き続ける花房観音が、京都に住み、京都を描き続けた作家・山村美紗の生涯に迫る。

読売新聞 2020/09/27

2020.7./ 227p

978-4-908443-52-7

本体 ¥1,500+税



海辺のカフカ<上>(新潮文庫)

村上 春樹 著

新潮社

日本経済新聞 2020/09/05

2005.3./ 486p

978-4-10-100154-8

本体 ¥710+税



海辺のカフカ<下>(新潮文庫)

村上 春樹 著

新潮社

日本経済新聞 2020/09/05

2005.3./ 528p

978-4-10-100155-5

本体 ¥850+税



国盗り物語<4> 改版 織田信長(新潮文庫 後編)

司馬 遼太郎 著

新潮社

日本経済新聞 2020/09/05

2004.2./ 718p

978-4-10-115207-3

本体 ¥1,000+税





新史太閤記<上> 改版(新潮文庫 し-9-10) 544p 2007

司馬 遼太郎 著
新潮社
日本経済新聞 2020/09/05

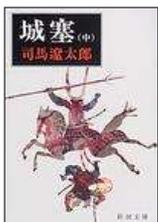
2007:9./ 544p
978-4-10-115210-3
本体 ¥850+税



新史太閤記<下> 改版(新潮文庫 し-9-11) 533p 2007

司馬 遼太郎 著
新潮社
日本経済新聞 2020/09/05

2007:9./ 533p
978-4-10-115211-0
本体 ¥750+税



城塞<中巻> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著
新潮社
日本経済新聞 2020/09/05

2002:4./ 588p
978-4-10-115221-9
本体 ¥850+税



コーヒーが廻り世界史が廻る～近代市民社会の黒い血液～(中公新書)

臼井 隆一郎 著
中央公論新社
日本経済新聞 2020/09/05

2000:7./ 237p
978-4-12-101095-7
本体 ¥680+税



司馬遼太郎全集<第14巻> 関ヶ原(1)

司馬遼太郎 著
文藝春秋
関ヶ原(一)

日本経済新聞 2020/09/05

1981:12./ 510p
978-4-16-510140-6
本体 ¥3,398+税

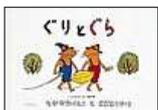


司馬遼太郎全集<第15巻> 関ヶ原(2)

司馬遼太郎 著
文藝春秋
関ヶ原(二)／豊臣家の人々

日本経済新聞 2020/09/05

1981:12./ 494p
978-4-16-510150-5
本体 ¥3,398+税



ぐりとぐら(ぐりとぐらの絵本)

中川李枝子 著
福音館書店
美味しそうなかすてらに、誰もが息をのむベストセラー絵本！！ぐりとぐらは、いつでもいっしょ。ある日、ふたりは森の中でおおきなたまごを見つけました。

日本経済新聞 2020/09/05

2007:4./ 27p
978-4-8340-0082-5
本体 ¥900+税





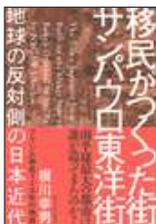
思わず考えちゃう

ヨシタケ シンスケ 著
新潮社

「いわゆる男女の仲って何?」「他人のストローの袋が気になる」「孤独感を、どう解消するか」...。ついつい考えすぎちゃう絵本作家が、まじめな事から世にも下らぬ事までスケッチと共に書きとめる。

日本経済新聞 2020/09/05

2019:3./ 143p
978-4-10-352451-9
本体 ¥1,000+税



移民がつくった街サンパウロ東洋街～地球の反対側の日本近代～

根川 幸男 著
東京大学出版会

1908年の笠戸丸移民から、ブラジル日系住民の都市化のプロセスをたどり、ブラジルに現れたいくつかの日本人街の出現と発展、衰退を概観。そのうえで東洋街形成の契機と背景、ブラジル日系社会の未来などを考察する。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:7./ 7p,365p,38p
978-4-13-023077-3

本体 ¥3,900+税



パチンコ<上>

ミン・ジン・リー 著
文藝春秋

1910年、釜山沖の影島。キム・ソンジャは日本との貿易を生業とするハンスの子供を身ごもる。彼に妻子がいることを知り、苦悩するソンジャに若き牧師イサクが手を差し伸べ、2人は大阪の鶴橋に渡り...

日本経済新聞 2020/09/05

2020:7./ 358p
978-4-16-391225-7
本体 ¥2,400+税



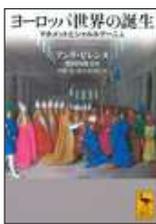
万物創生をはじめよう～私的 VR 事始～

ジャロン・ラニアー 著
みすず書房

VRは人間の主観に軸足を置くテクノロジー。第1次VRブームの立役者が、VRの来歴と次世代への展望、人間とVRの関係の本質、先駆者ならではの思索、80年代?90年代初頭のシリコンバレーの情景などを書き尽くす。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:6./
4p,424p,50,6p
978-4-622-08907-0
本体 ¥3,600+税



ヨーロッパ世界の誕生～マホメットとシャルルマーニュ～(講談社学術文庫 2620)

ピレンヌ アンリ 著
講談社

イスラムの急激な進出により分断と終焉を迎えたローマ文化。文明の枢軸は地中海から北方へと移り、封建制と教会支配の「ヨーロッパ」が誕生した。西洋世界の転換点を解明する、歴史家ピレンヌの集大成にして古典的名著。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:7./ 505p
978-4-06-520289-0
本体 ¥1,690+税



アリ語で寝言を言いました(扶桑社新書 335)

村上 貴弘 著
扶桑社

おしゃべりするアリ、農業をするアリ、一生巢の“扉”役のアリ、一生天井からぶら下がっている“貯蓄”役のアリ...。究極の役割分担社会に進化した驚愕のアリの世界を、熱帯の森を這いずり回る「アリ先生」が紹介する。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:7./ 246p
978-4-594-08546-9
本体 ¥900+税





フェアブル昆虫記～完訳～<第 10 巻下>

ジャン=アンリ・フェアブル 著
集英社

キンイロオサムシの食物と繁殖、ミヤマクロバエの産卵、きのこ昆虫、キャベツのアオムシ…。フランス文学者であり昆虫に関する知識の豊かさでも知られる奥本大三郎がフェアブルの世界を完訳する。

日本経済新聞 2020/09/05

2017:5./ 439p
978-4-08-131020-3
本体 ¥3,800+税



小林一三～日本が生んだ偉大なる経営イノベーター～

鹿島 茂 著
中央公論新社

この男の人生に、日本の経営学の全てがある！ 阪急電鉄、宝塚、東宝などを創設、東京電燈(後の東京電力)の再建などで手腕を発揮した近代日本を代表する経営者・小林一三の思想と業績を追う。『中央公論』連載を書籍化。

日本経済新聞 2020/09/05

2018:12./ 510p
978-4-12-005151-7
本体 ¥2,000+税



りんごかもしれない

ヨシタケ シンスケ 著
ブロンズ新社

テーブルの上のりんご。でも、もしかしたら、これはりんごじゃないのかもしれない。大きなサクランボの一部かも。何かのタマゴかも…。考える力があれば、世の中ははてしなく面白い。ひとつのりんごから始まる、発想えほん。

日本経済新聞 2020/09/05

2013:4./ 1 冊(ページ
付なし)
978-4-89309-562-6
本体 ¥1,400+税



パンデミックを生き抜く～中世ペストに学ぶ新型コロナ対策～(朝日新書 773)

濱田篤郎 著
朝日新聞出版

ペスト感染症史から、コロナ第2波への備えを導く！ 渡航医学の第一人者が「医学考古学」という観点から不安にならずに今を乗り切る知恵をまとめる。コロナ流行だけでなく今後の感染症流行への対処法も紹介。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:7./ 236p
978-4-02-295083-3
本体 ¥810+税



LEGEND～ハリウッド最強のエージェント、マイケル・オービッツ自伝～

マイケル・オービッツ 著
日経BP社

メールマンからのし上がり、人気俳優・監督を抱えるエージェンシーを創業。ハリウッドで権力を手にし、今シリコンバレーで尊敬される男マイケル・オービッツが、ビジネスで勝ち得た成功と共に、挫折や苦悩も余すことなく綴る。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:8./ 518p
978-4-8222-8893-8
本体 ¥2,000+税



だから、もう眠らせてほしい～安楽死と緩和ケアを巡る、私たちの物語～

西 智弘 著
晶文社

安楽死を願った2人の若き患者と過ごし、そして別れたある夏に何が起こったか。緩和ケア医が全身で患者と向き合い、懸命に言葉を交わし合った「生命」の記録。事実をもとにした物語。宮下洋一、松本俊彦らとの対談も収録。

日本経済新聞 2020/09/05

2020:7./ 250p
978-4-7949-7187-6
本体 ¥1,600+税





『陸軍分列行進曲』とふたつの『君が代』～出陣学徒は敵性音楽で戦場に送られた～(平凡社新書 953)

大山 真人 著
平凡社

外国人音楽家の力を借りた国歌「君が代」、フランス人音楽家の曲をもとにした「陸軍分列行進曲」といった敵性音楽を、「出陣学徒壮行会」の場で平気で用いたたかさは、どこからくるのか。音楽史の視点からその闇に迫る。

日本経済新聞 2020/09/05

2020.8./ 213p
978-4-582-85953-9
本体 ¥840+税



漢字の構造～古代中国の社会と文化～(中公選書 108)

落合 淳思 著
中央公論新社

原始的な社会に関する文字、古代文明に関する文字、祭祀儀礼や制度・軍事を元にした文字…。漢字の成り立ちと字形の構造を解説し、その背景となった古代中国の社会や文化を紹介。先行研究の問題点も検証する。

日本経済新聞 2020/09/05

2020.7./ 325p
978-4-12-110108-2
本体 ¥1,800+税



冷戦 ワールド・ヒストリー<下巻>

O. A. ウェスタッド 著
岩波書店

資本主義と社会主義に世界を二分し、国家や人々の生活を翻弄した冷戦。その 100 年の歩みを描き、全世界を包含した「世界史」としての冷戦を浮かび上がらせる。下は、ヴェトナム戦争からソ連解体までを扱う。

日本経済新聞 2020/09/05

2020.7./ 7p,462p,60p
978-4-00-025673-5
本体 ¥3,400+税



冷戦 ワールド・ヒストリー<上巻>

O. A. ウェスタッド 著
岩波書店

資本主義と社会主義に世界を二分し、国家や人々の生活を翻弄した冷戦。その 100 年の歩みを描き、全世界を包含した「世界史」としての冷戦を浮かび上がらせる。上は、19 世紀末からキューバ危機までを扱う。

日本経済新聞 2020/09/05

2020.7./
17p,432p,22p
978-4-00-025672-8
本体 ¥3,400+税



雲は答えなかった～高級官僚その生と死～(PHP 文庫 こ 60-1)

是枝 裕和 著
PHP研究所

自身の良心と、職責との板挟みの末の悲劇。1990 年、水俣病訴訟を担当する官僚の自殺はそう報じられた。だが妻の証言、彼の歩みを辿るうち、見えざる側面が浮かび上がってきた。是枝裕和監督の原点となるノンフィクション。

日本経済新聞 2020/09/05

2014.3./ 308p
978-4-569-76155-8
本体 ¥648+税



ノボさん～小説正岡子規と夏目漱石～<下>(講談社文庫 い 63-27)

伊集院 静 著
講談社

小説の道を断念した子規は帝大も退学し、新聞「日本」に入社する。カリエスの痛みをおして文芸の改革に取り組み『ホトギス』も創刊されるが、漱石はイギリスへと旅立ち…。夢の中を走り続けた 2 人の姿を描いた青春小説。

日本経済新聞 2020/09/05

2016.1./ 284p
978-4-06-293314-8
本体 ¥620+税





国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ～藤井宏昭外交回想録～

細谷雄一／白鳥潤一郎／山本みずき 編
藤井 宏昭／細谷 雄一／白鳥 潤一郎 著
吉田書店

新日米安保条約調印式、日中国交正常化、石油危機、昭和天皇大喪の礼、日英関係...。駐英大使、官房長、北米局長などの要職を歴任し、多くの歴史的転換点に立ちあった外交官が、戦後日本の歩みを振り返る。

2020/5./ 363p
978-4-905497-86-8
本体 ¥3,000+税



日本経済新聞 2020/09/05



欲が出ました

ヨシタケ シンスケ 著
新潮社

人間って「プチ欲」が出た時、何とも言えない顔をする。つつい考えすぎちゃう絵本作家が、「ネコにほめてもらいたい」「架空の島で休暇を取りたい」といったさまざまな「欲」をスケッチと共に書きとめる。

2020/7./ 151p
978-4-10-352452-6
本体 ¥1,000+税



日本経済新聞 2020/09/05



戦争をいかに語り継ぐか～「映像」と「証言」から考える戦後史～(NHK ブックス 1263)

水島 久光 著
NHK出版

戦争の実相は聞く者へ伝わってきたのか？膨大なテレビドキュメンタリー、若い世代の受け止め方の変遷、語りによる伝承を綿密に分析し、視聴覚メディアを題材に、継承の場を作る条件を明らかにする。

2020/6./ 286p
978-4-14-091263-8
本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2020/09/05



パチンコ<下>

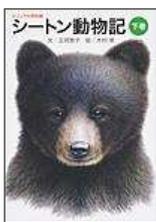
ミン・ジン・リー 著
文藝春秋

戦中の大阪を生き抜き、2人の息子を育てあげたソンジャ。そこへ日本の裏社会で大きな存在感をもつハンスが現れる。長男ノアは自分の実の父親がハンスだと知り...。4世代にわたる在日コリアン一家の苦闘を描く。

2020/7./ 366p
978-4-16-391226-4
本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2020/09/05



シートン動物記～ビジュアル特別版～<下巻>

シートン、正岡 慧子、木村 修 著
世界文化社

動物文学の最高峰「シートン動物記」が細密画とともによみがえる。下は、「こぐまのジョニー」「チカリーとキノコ」「蜂の王者クラッグ」など、小学生の読書感想文に最適な5話を収録。

2018/3./ 167p
978-4-418-18809-3
本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2020/09/05



シートン動物記～ビジュアル特別版～<上巻>

シートン、正岡 慧子、木村 修 著
世界文化社

動物文学の最高峰「シートン動物記」が細密画とともによみがえる。上は、「オオカミ王ロボ」「アライグマのウエイ・アッチャ」「栗毛の子馬」など、小学生の読書感想文に最適な5話を収録。

2018/3./ 167p
978-4-418-18808-6
本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2020/09/05



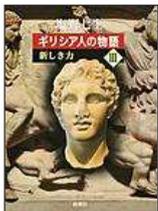
素顔の田中角栄～密着!最後の1000日間～(宝島社新書 500)

山本 皓一 著
宝島社

没後四半世紀を経て、いまなお人気を誇る田中角栄。1980年代の角栄に密着し、病に倒れるまでの1000日間を撮り続けた報道写真家が、「角さん」の素顔と知られざる逸話を初めて明かす。貴重なカラー写真を多数収録。

日本経済新聞 2020/09/05

2018:7./ 239p
978-4-8002-8593-5
本体 ¥1,000+税



ギリシア人の物語<3> 新しき力

塩野 七生 著
新潮社

夢見るように生き、炎のように燃え尽きた「永遠の青春」アレクサンダー大王。なぜ、彼だけが後の人々から、「大王」と呼ばれるようになったのか。その唯一無二の生に肉薄した歴史長編。完結。

日本経済新聞 2020/09/05

2017:12./ 464p,13p
978-4-10-309641-2
本体 ¥3,200+税



ノボさん～小説正岡子規と夏目漱石～<上>(講談社文庫 い 63-26)

伊集院 静 著
講談社

明治20年、ベーすぼーるに夢中の青年、正岡子規は、東大予備門で秀才の誉れ高い夏目漱石と運命的な出逢いを果たす。だが、間もなく血を吐いてしまい…。夢の中を走り続けた2人の姿を描いた青春小説。

日本経済新聞 2020/09/05

2016:1./ 275p
978-4-06-293313-1
本体 ¥620+税



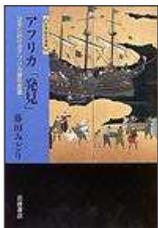
首里の馬

高山 羽根子 著
新潮社

中学生の頃から沖縄の郷土資料館の資料整理を手伝う未名子は、世界の果ての遠く隔たった場所にいる人たちにオンライン通話でクイズを出題するオペレーター。ある台風の夜、庭に迷いこんできたのは…。『新潮』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2020/09/05、東京・中日新聞 2020/09/13

2020:7./ 158p
978-4-10-353381-8
本体 ¥1,250+税



アフリカ「発見」～日本におけるアフリカ像の変遷～(世界歴史選書)

藤田 みどり 著
岩波書店

日本経済新聞 2020/09/12

2005:5./ 301, 54p
978-4-00-026853-0
本体 ¥3,200+税



参加型社会宣言～22世紀のためのコンセプト・ノート～(未来叢書 1)

橘川 幸夫 著
メタ・ブレーン

日本経済新聞 2020/09/12

2020:7./ 327p
978-4-905239-57-4
本体 ¥2,200+税





新移民時代～外国人労働者と共に生きる社会へ～ 増補

西日本新聞社 編
明石書店

2016年、日本国内の外国人労働者が100万人を突破した。移民政策をどうするのか。日本で暮らす外国人の実像や、彼らなしでは成り立たない日本社会の現実を見つめ、共生の道を探る。入管難民法改正の解説等を増補。

日本経済新聞 2020/09/12

2020.8./ 330p
978-4-7503-5069-1
本体 ¥1,600+税



ウイルスの世紀～なぜ繰り返し出現するのか～

山内 一也 著
みすず書房

20世紀後半以降、人間社会に次々と出現した新ウイルスを「エマージングウイルス」という。新型コロナウイルス(COVID-19)をはじめ、数々のエマージングウイルス事例を通じてウイルスと人間社会の関係を俯瞰する。

日本経済新聞 2020/09/12

2020.8./ 237p,14p
978-4-622-08926-1
本体 ¥2,700+税



スパイはいまも謀略の地に(Hayakawa Novels)

ジョン・ル・カレ 著
早川書房

イギリス秘密情報部のベテラン情報部員ナットは、引退の時期が迫るも、対ロシア活動部署の再建を任される。そこでロシアの大物スパイの活動をつかみ…。EU 離脱に揺れるイギリスを舞台に、練達のスパイの信念と誇りを描く。

日本経済新聞 2020/09/12

2020.7./ 350p
978-4-15-209953-2
本体 ¥2,300+税



スミスの倫理～『道徳感情論』を読む～

竹本 洋 著
名古屋大学出版会

スミス倫理学の真の射程とは。近代における倫理のメカニズムと意義を明瞭に説き、政治・経済・社会のよき運用を支える心理学的な人間学を打ち立てた、もうひとつの主著「道徳感情論」から描き出す。

日本経済新聞 2020/09/12

2020.6./ 7p,222p,29p
978-4-8158-0990-4
本体 ¥5,400+税



大学はもう死んでいる?～トップユニバーシティからの問題提起～(集英社新書1006)

荻谷 剛彦、吉見 俊哉 著
集英社

なぜ大学改革は失敗するのか? オックスフォード大学教授・荻谷剛彦と東京大学大学院教授・吉見俊哉が、それぞれの大学を比較し、日本のトップレベルの大学が抜け出せずにいる問題の根幹を、対論を通じて浮かび上がらせる。

日本経済新聞 2020/09/12

2020.1./ 283p
978-4-08-721106-1
本体 ¥900+税



ここにしかない大学～APU 学長日記～

出口治明 著
日経BP社

なにを考えて APU を「経営」し、改革に乗り出したのか。どのような教育やキャリア形成が必要と考えるか、日本の問題点と改善案とは。学生の半分が世界約100カ国から来た留学生の超国際派大学の、新米学長の奮闘記。

日本経済新聞 2020/09/12

2020.5./ 212p
978-4-296-10143-6
本体 ¥1,600+税





SDGs(持続可能な開発目標)(中公新書 2604)

蟹江 憲史 著
中央公論新社

ポスト・コロナ時代に、企業・自治体、そして我々個人はどう行動すべきか。第一人者が、SDGs(持続可能な開発目標)のすべてを解説する。17目標・169ターゲットの新訳も掲載。

日本経済新聞 2020/09/12

2020:8./ 9p,281p
978-4-12-102604-0
本体 ¥920+税



カレーライス〜教室で出会った重松清〜(新潮文庫 し-43-29)

重松 清 著
新潮社

給食の味が、放課後の空気が、先生や友だちの声がよみがえる。学習教材にたびたび登場する重松清の作品のなかから、表題作ほか全 9 編を収録。おとなになっても忘れない、子どもたちの心とことばを育ててくれた名作集。

日本経済新聞 2020/09/12

2020:7./ 277p
978-4-10-134939-8
本体 ¥590+税



口福のレシピ

原田 ひ香 著
小学館

駆け出し料理研究家・留希子と、老舗料理学校を運営する母と祖母。相容れない両者の間に隠された秘密とは。冷や汁、生姜焼き…。心をほぐす“家庭料理”小説。『STORY BOX』連載を改題し、書き下ろしを加え単行本化。

日本経済新聞 2020/09/12

2020:8./ 283p
978-4-09-386586-9
本体 ¥1,500+税



戦争の歌がきこえる

佐藤 由美子 著
柏書房

第二次世界大戦を生き抜いたアメリカ人は、人生の最期に何を語ったのか。日本人である著者に対して、どのような気持ちを抱いたのか。音楽療法士としてアメリカのホスピスで出会った、戦争経験者たちのストーリーを紹介する。

日本経済新聞 2020/09/12

2020:7./ 261p
978-4-7601-5249-0
本体 ¥1,700+税



平成時代の日韓関係〜楽観から悲観への三〇年〜

木村 幹／田中 悟／金 容民 編
ミネルヴァ書房

冷戦終結・バブル景気により楽観的な展望が語られていた日韓関係が、慰安婦問題・竹島問題の激化などを経て対立を深めた平成時代。なぜ両国は、この時期に関係を悪化させたのか。日韓関係の全貌と構造、そして変化を解明する。

日本経済新聞 2020/09/12

2020:7./ 15p,328p,7p
978-4-623-08823-2
本体 ¥3,500+税



紀元2600年の満州リーグ〜帝国日本とプロ野球〜

坂本 邦夫 著
岩波書店

東京オリンピックが幻に終わった 1940 年、満州で日本プロ野球のリーグ戦が開催された。だが、やがて国策と戦争に翻弄されていき…。苦難の道を歩んだ日本プロ野球の埋もれた歴史を、日韓二人の野球人の運命を軸に描き出す。

日本経済新聞 2020/09/12、産経新聞 2020/09/20

2020:7./
23p,339p,33p
978-4-00-061416-0
本体 ¥3,000+税





クレメント・アトリー～チャーチルを破った男～(中公選書 109)

河合 秀和 著
中央公論新社

1945 年、アトリー率いる労働党は第二次大戦の勝利の立役者チャーチルを抑え、総選挙で圧勝した。現在のイギリス社会の基礎を築き、今なお評価の高いアトリー政権。労働党をまとめ、社会主義を信じ続けたアトリーの評伝。

2020/7./ 374p
978-4-12-110109-9
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2020/09/12、毎日新聞 2020/09/26



世界滅亡マシン～核戦争計画者の告白～

ダニエル・エルズバーグ 著
岩波書店

「ペンタゴン・ペーパーズ」の公表で有名な内部告発者は、ケネディ政権の核戦争計画策定にも重要な役割を果たしていた。半世紀にわたってその重い秘密を抱えてきた著者が渾身の思いで綴る人間の狂気の年代記。

2020/6./
15p,410p,47p
978-4-00-061411-5
本体 ¥3,900+税



日本経済新聞 2020/09/19



舎弟たちの世界史(韓国文学セレクション)

イ・ギホ(李起昊) 著
新泉社

軍事政権下の 1980 年代、身に覚えのない事件で政治犯に仕立てられたタクシー運転手ナ・ボンマンは、小さな夢も人生もめちゃくちゃになっていく。不条理な時代に翻弄される平凡な一市民の人生を描いた悲喜劇的な秀作。

2020/8./ 338p
978-4-7877-2023-8
本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2020/09/19



北朝の天皇～「室町幕府に翻弄された皇統」の実像～(中公新書 2601)

石原 比伊呂 著
中央公論新社

建武 3 年(1336)、新天皇を擁し幕府を開いた足利尊氏。後醍醐天皇は吉野に逃れ、二帝が並び立つ時代が始まる。北朝の天皇は室町幕府の傀儡だったのか? 両者の交わりから、困難な時代を生き抜いた天皇家の軌跡を描く。

2020/7./ 5p,251p
978-4-12-102601-9
本体 ¥880+税



日本経済新聞 2020/09/19



笑いの哲学(講談社選書メチエ 729)

木村 覚 著
講談社

「笑いとは平穏な日常の破裂である」という視点から、「優越」「不一致」「ユーモア」の笑いを分析。日本社会の笑いの状況を見渡しつつ、秩序・掟への揺さぶりとして笑いの可能性を考える。

2020/7./ 244p
978-4-06-520293-7
本体 ¥1,750+税



日本経済新聞 2020/09/26



黒い雨に撃たれて～二つの祖国を生きる日系人家族の物語～<下>

池田 年穂/西川 美樹 編
パメラ・ロトナー・サカモト 著
慶應義塾大学出版会

アメリカ陸軍兵試験に合格したハリーは、日本兵と対峙。赴任当初は差別を受けるが、実績を上げ、信頼を勝ちえていく。そんなハリーに、広島への原爆投下の一報が入り…。日米双方の市井の人々の経験をあざやかに描き出す。

2020/7./ 182p,49p
978-4-7664-2686-1
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2020/09/26

**サブリーナとコリーナ(CREST BOOKS)**カリ・ファハルド＝アンスタイン 著
新潮社

サブリーナは、黒髪に淡いブルーの瞳のとびきり美人。なのになぜ、死を選ばなければならなかったのか。ヒスパニック系コミュニティの女たちのやるせない日常を描いた短篇集。表題作ほか全 11 篇を収録する。

2020.8./ 287p
978-4-10-590167-7
本体 ¥2,100+税

日本経済新聞 2020/09/26

**ハイファに戻って(河出文庫 カ3-1)**G.カナファーニー、G.カナファーニー、黒田 寿郎、奴田原 睦明 著
河出書房新社

パレスチナ抵抗運動の中心で闘い、自動車爆弾によって夭折した作家がのこした名作群。20 年ぶりに再会した親子の中にパレスチナとイスラエルの苦悩を凝縮させた「ハイファに戻って」など 7 篇を収録。

2017.6./ 292p
978-4-309-46446-6
本体 ¥880+税

日本経済新聞 2020/09/26

**黒い雨に撃たれて～二つの祖国を生きた日系人家族の物語～<上>**池田 年穂／西川 美樹 編
パメラ・ロトナー・サカモト 著
慶應義塾大学出版会

ワシントン州シアトルで、広島出身の両親のあいだに生まれたハリーは、父の死後、広島に移住するが、日本に馴染めず、1938 年に帰米。ところが、アジア太平洋戦争勃発に伴い、強制収容所に収監され…。

2020.7./ 254p
978-4-7664-2685-4
本体 ¥2,500+税

日本経済新聞 2020/09/26

**明の太祖朱元璋(ちくま学芸文庫 タ51-1)**檀上 寛 著
筑摩書房

疫病と政治的混乱の中、最下層民でありながら皇帝にまで登り詰め、約 550 年に及ぶ明清王朝の礎を築いた巨人・朱元璋。「聖賢と豪傑と盗賊の性格をかね備えていた」と指摘される明の太祖のドラマを、膨大な史料で描き出す。

2020.9./ 318p
978-4-480-51005-1
本体 ¥1,200+税

日本経済新聞 2020/09/26

**バブル**山口 ミルコ 著
光文社

会社は幻? 幻冬舎創業期を支えた元ベストセラー編集者の山口ミルコ。ボスとの出会いから別れまで。同時代を生きた異業種の女性たちの発言を織り込みながら、自らの会社人生を綴る。『婦人公論』連載を加筆修正し単行本化。

2020.9./ 274p
978-4-334-95197-9
本体 ¥1,600+税

日本経済新聞 2020/09/26

**移民が導く日本の未来～ポストコロナと人口激減時代の処方箋～**毛受 敏浩 著
明石書店

外国人受入れ政策への転換の舞台裏を明らかにするとともに、移民受入れの未来予測を成功例のストーリーとして示す。また、ポストコロナ時代こそ本格的な移民政策への移行のチャンスとして、日本の歩むべき道を提示する。

2020.8./ 213p
978-4-7503-5066-0
本体 ¥2,000+税

日本経済新聞 2020/09/26



天才 富永仲基～独創の町人学者～(新潮新書 875)

積 徹宗 著
新潮社

江戸中期、驚くべき町人学者が大坂にいた。世界に先駆けて仏典を実証的に解説。日本思想史に大きな爪痕を残し、31歳で夭折した“知られざる天才”の生涯と思想に、僧侶にして宗教学者の著者が迫る。

日本経済新聞 2020/09/26

2020/9./ 255p
978-4-10-610875-4
本体 ¥800+税



コロナ後の世界(文春新書 1271)

ジャレド・ダイヤモンド／ポール・クルーグマン／リンダ・グラットン／マックス・テグマー
ク／スティーブン・ピンカー／スコット・ギャロウェイ／大野 和基 著

文藝春秋

国境を超えて蔓延する新型コロナウイルス。このパンデミックは人類の歴史にどんな影響を及ぼすのか。これから我々はどんな未来に立ち向かうのか。世界の知性 6 人にインタビューし、世界と日本の行く末を問う。

日本経済新聞 2020/09/26

2020/7./ 202p
978-4-16-661271-0
本体 ¥800+税



地政学原論

庄司 潤一郎／石津 朋之 著
日本経済新聞出版社

国際関係を語る際に欠かせない切り口となっている地政学の正体とは何か。内外の地政学研究の現状を把握し、地政学の理論の系譜を人物ごとに記述し、地政学の実践についても地域ごとに解説した体系的テキスト。

日本経済新聞 2020/09/26

2020/7./ 10p,367p
978-4-532-17682-2
本体 ¥3,800+税



韓国社会の現在～超少子化、貧困・孤立化、デジタル化～(中公新書 2602)

春木 育美 著
中央公論新社

若者の就業率、教育費負担、男女の賃金差など先進国の中で“最悪”の数値を示す韓国。少子高齢化、貧困・孤立化、デジタル化、教育、ジェンダーを柱に、深刻化した現状と打開への試行錯誤を描く。

日本経済新聞 2020/09/26

2020/8./ 5p,264p
978-4-12-102602-6
本体 ¥880+税



TRAILBLAZER 企業が本気で社会を変える 10の思考

マーク・ベニオフ／モニカ・ラングレー 著
東洋経済新報社

創業 20 年で従業員 5 万人、GAF A と並び急成長を遂げた世界最大の顧客管理ソフトウェア企業「セールスフォース・ドットコム」創業者が、企業理念とリーダーシップについて語る。

日本経済新聞 2020/09/26

2020/7./ 9p,351p
978-4-492-53428-1
本体 ¥1,800+税



普遍的価値を求める～中国現代思想の新潮流～(叢書・ユニベルシタス 1121)

許紀霖 著
法政大学出版局

中国、東アジア、世界の普遍的な価値と秩序をどう再構築すべきか。中国中心主義や中国特殊論の批判を踏まえて、価値相対主義に陥ることなく「共に享受する普遍性」としての「新天下主義」を提唱し、文明、文化、国家を論じる。

日本経済新聞 2020/09/26

2020/8./ 14p,339p,5p
978-4-588-01121-4
本体 ¥3,800+税





わさびの日本史～鮎・蕎麦・刺身...和食との出会いを探る～

山根 京子 著
文一総合出版

日本固有の野生植物「ワサビ」は、いつ、どこで、どのようにして栽培植物になったのか。DNA 解析でワサビが固有種であることを明らかにした著者が、古典籍と絵画を渉猟してその謎に挑む。わさび歴史年表付き。

2020:7./ 240p
978-4-8299-7233-5
本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2020/09/26



ゾンビとの論争～経済学、政治、よりよい未来のための戦い～

ポール・クルーグマン 著
早川書房

富裕層への優遇、および気候変動否定論などの米保守派の主張を「ゾンビ思想」として批判。先進国における経済情勢と社会保障制度の問題点について、理論とデータを交えながら解説し、労働者の生活を守るための政策を提言する。

2020:7./ 493p
978-4-15-209956-3
本体 ¥3,300+税



日本経済新聞 2020/09/26



アウシュヴィッツ潜入記～収容者番号 4859～

ヴェイトルト・ピレツキ 著
みすず書房

アウシュヴィッツへの潜入の目的は2つ。収容所の実態を外に伝え、収容者仲間を組織して武装蜂起に備えること。自ら進んで拘束され、収容所に入ったポーランド将校ピレツキが、上司宛に綴った詳細な報告。

2020:8./
54p,386p,40p
978-4-622-08830-1
本体 ¥4,500+税



日本経済新聞 2020/09/26、読売新聞 2020/09/27



クラシック音楽家のためのセルフマネジメント・ハンドブック

ベルンハルト・ケレス/ベッティーナ・マーネ 著
アルテスパブリッシング

自分の売り込み方、ギャラの交渉、SNS 活用術、資金管理…。クラシック音楽家が仕事を始めてすぐに必要となる知識からキャリア形成の考え方まで、芸術面でも経済面でも成功を収める術を実践的にアドバイスする。

2020:7./ 197p
978-4-86559-212-2
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/09/26、読売新聞 2020/09/27



外套・鼻 改版(岩波文庫 赤 605-3)

ゴーゴリ、平井 肇 著
岩波書店

ある日、鼻が顔から抜け出してひとり歩きを始めた――。滑稽洒脱かつ透徹した写実主義的筆致で描かれる奇想天外なナンセンス譚『鼻』。運命と人に辱められる 1 人の貧しき下級官吏に対する限りなき憐憫の情に満ちた『外套』。ゴーゴリ(1809—1852)作品の名翻訳者として知られる平井肇(1896—1946)の名訳 2 篇。

2006:2./ 110p
978-4-00-326053-1
本体 ¥520+税



毎日新聞 2020/09/05



ジョージ・オーウェル～「人間らしさ」への讃歌～(岩波新書 新赤版 1837)

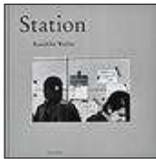
川端 康雄 著
岩波書店

「反ソ・反共」作家のイメージから「監視社会化」に警鐘を鳴らした人物へと、時代とともにその評価も変化してきたジョージ・オーウェル。ポスト真実の時代に再評価が進む彼の生涯と作品群をたどり、その思想の根源をさぐる。

2020:7./ 6p,265p,13p
978-4-00-431837-8
本体 ¥880+税



毎日新聞 2020/09/05

**Station**

鷺尾 和彦／梨木 香歩 著
夕書房

2015年9月、オーストリア・ウィーン西駅。そこで私は、押し寄せる人の波に突如としてのみ込まれた。誰もがさまよう「難民」の時代、多様な人々が行き交う駅のホームでの3時間を写し取った写真集。

毎日新聞 2020/09/05

2020/6./ 87p
978-4-909179-05-0
本体 ¥3,600+税

**失われた世界(創元 SF 文庫 SFト1-2)**

アーサー・コナン・ドイル 著
東京創元社

アマゾン流域で死んだ男の遺品から、奇妙な生物の描かれたスケッチブックが発見された。男が遭遇したのは有史前の生物だったのではないか。チャレンジャー教授は、調査隊を率いて勇躍アマゾン探検におもむいた。

毎日新聞 2020/09/05

2020/7./ 328p
978-4-488-60805-7
本体 ¥880+税

**地図で読むアメリカ**

ジェームス・M・バーダマン／森本 著
朝日新聞出版

アメリカの10地域の土地の歴史、人々の生活、価値観、経済状況をベースに新たな立体像を作る。単なる印象やイメージではなく、最新の調査結果に基づき事実を記す。本当のアメリカは、10地域で捉えるとみえてくる。

毎日新聞 2020/09/05

2020/4./ 269p
978-4-02-331796-3
本体 ¥1,700+税

**仕事本～わたしたちの緊急事態日記～**

尾崎 世界観／町田 康／花田 菜々子 著
左右社

ひとつの仕事は誰かの生活につながり、その生活がまた別の人の仕事を支えている！パン屋、内科医、校長など、緊急事態宣言が出される中、コロナにも負けず働いていた様々な職業の人たち77人の2020年4月の日記を収録。

毎日新聞 2020/09/05

2020/6./ 446p
978-4-86528-283-2
本体 ¥2,000+税

**科学と文学(角川ソフィア文庫 L117-4)**

寺田 寅彦 著
KADOKAWA

映画のモニタージュ構成を芭蕉連句に喩えるなど、ジャンルを超えて芸術の本質に迫る眼差しをもっていた寺田寅彦。科学者としての生活の中に文学の世界を見出した「映画芸術」「連句雑俎」「科学と文学」などを収録。

毎日新聞 2020/09/05

2020/7./ 252p
978-4-04-400587-0
本体 ¥800+税

**変われ!東京～自由で、ゆるくて、閉じない都市～(集英社新書 1028)**

隈 研吾／清野 由美 著
集英社

建築家・隈研吾とジャーナリスト・清野由美が、東京を歩き、語る都市論。シェアハウス、トレーラーの移動店舗、木造バラックの再生など「小さな場所」の可能性を探り、コロナ後の都市生活者の生き方に新しい方向を示す。

毎日新聞 2020/09/05

2020/7./ 253p
978-4-08-721128-3
本体 ¥860+税





マルジナリアでつかまえて<書かずば読めぬの巻>

山本 貴光 著

本の雑誌社

余白の書き込み「マルジナリア」。著名人から無名の痕跡、プログラミングのコメントまで、広くて深いマルジナリアの面白さを追う。『本の雑誌』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2020/7./ 309p,8p

978-4-86011-445-9

本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2020/09/05



魚食の人類史～出アフリカから日本列島へ～(NHK ブックス 1264)

島 泰三 著

NHK出版

霊長類の中でホモ・サピエンスだけが魚を食べる本当の理由とは? 飢えを満たし、交通手段を発展させ、新たな文化を生み出した原動力を、他の霊長類との比較や、最新の人類史研究の成果を総動員しながら探る。

2020/7./ 238p

978-4-14-091264-5

本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2020/09/05



日本蒙昧前史

磯崎 憲一郎 著

文藝春秋

大阪万博、三島由紀夫の自決、五つ子ちゃん誕生、ロッキード事件、グリコ・森永事件...。語り手を自在に換えつつ狂騒と蒙昧の戦後を彩った様々な事件とその陰にある無数の生を描き出す長篇。『文學界』掲載を単行本化。

2020/6./ 245p

978-4-16-391227-1

本体 ¥2,100+税



毎日新聞 2020/09/05、読売新聞 2020/09/27



東條英機～「独裁者」を演じた男～(文春新書 1273)

一ノ瀬 俊也 著

文藝春秋

1930年代以降、航空戦と総力戦を重視した東條英機。「冷酷無比な独裁者」「天皇を守った忠臣」など、さまざまな評価がある生涯を「総力戦指導者」として再検証。イデオロギーを排除した新しい東條像を示す。

2020/7./ 383p

978-4-16-661273-4

本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2020/09/05、日本経済新聞 2020/09/12



愛されなくても別に

武田 綾乃 著

講談社

愛情は、すべてを帳消しにできる魔法なんかじゃない。「響け!ユーフォニアム」シリーズの著者・武田綾乃が、生きづらい現実と女の子同士の友情を描く。息詰まる「現代」に風穴を開ける作品。『小説現代』掲載を単行本化。

2020/8./ 281p

978-4-06-520578-5

本体 ¥1,450+税



毎日新聞 2020/09/06



どくとるマンボウ青春記(新潮文庫)

北 杜夫 著

新潮社

毎日新聞 2020/09/12

2000/9./ 326p

978-4-10-113152-8

本体 ¥550+税





インドネシア大虐殺～二つのクーデターと史上最大級の惨劇～(中公新書 2596)

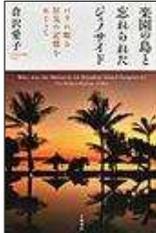
倉沢 愛子 著
中央公論新社

1960年代後半、インドネシアで起こった2度のクーデター「九・三〇事件」「三・一一政変」。この一連の事件の裏で市民が巻き添えとなり、残虐な手口で殺戮された。謎多き大量殺戮の真相に、現地調査と最新資料から迫る。

2020/6./ 4p,222p
978-4-12-102596-8
本体 ¥820+税



毎日新聞 2020/09/12



楽園の島と忘れられたジェノサイド～バリに眠る狂気の記憶をめぐって～

倉沢 愛子 著
千倉書房

1965年のある事件をきっかけに、バリ島のごく普通の住民たちが隣人を、狂気に駆られたかのように一方的に殺害していった。なぜ、かくも恐ろしい惨劇が起こったのか。惨劇の発端とその後の展開を実証的に分析する。

2020/7./ 23p,258p
978-4-8051-1205-2
本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2020/09/12



死の教科書～心が晴れる 48 のヒント～(宝島社新書 587)

五木 寛之 著
宝島社

21世紀のいま「人生100年時代」と言われるようになったが、病気、災害など、私たちの日常は死と隣り合わせにある。死を身近なものとして付き合っていくには？ 生と死のあり方を考える作家・五木寛之による48の問答集。

2020/9./ 239p
978-4-299-00413-0
本体 ¥740+税



毎日新聞 2020/09/12



シンボルの哲学～理性、祭礼、芸術のシンボル試論～(岩波文庫 38-602-1)

S.K.ランガー 著
岩波書店

アメリカにおける記号論の礎を築き、芸術の哲学に発展させた、S.K.ランガーの古典的名著。シンボル機能の結実である言語、音楽、美術、神話、祭祇などについて具体的に詳説する。

2020/8./ 586p,28p
978-4-00-386015-1
本体 ¥1,440+税



毎日新聞 2020/09/12



サキの忘れ物

津村 記久子 著
新潮社

ある日、千春はアルバイト先の喫茶店で客が忘れていった一冊の本を手にする。それは千春がはじめて読み通した本となり…。たやすくはない日々を宿る僥倖のような、まなざしあたたかな短篇9編を収録。『文藝』ほか掲載を書籍化。

2020/6./ 216p
978-4-10-331982-5
本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2020/09/12



医者にがんと言われたら最初に読む本

中川 恵一 著
エクスマレッジ

がんが見つかったら行うことや知っておくこと、さまざまなガンの治療法、がんとともに生きるには…。がん患者である東大のがん専門医が、がん治療のきほんをわかりやすく伝える。養老孟司との対談も収録。

2020/8./ 191p
978-4-7678-2799-5
本体 ¥1,300+税



毎日新聞 2020/09/12



ブルシット・ジョブ〜クソどうでもいい仕事の理論〜

デヴィッド・グレーバー 著

岩波書店

なぜ社会の役に立つ仕事ほど低賃金なのか。私たちの世界をむしばむブルシット・ジョブ(クソどうでもいい仕事)の実態と弊害とメカニズムを、証言・人文知等を駆使しながら解明、理論化。仕事のほんとうの「価値」を再考する。

2020/7./ 7p,426p,7p

978-4-00-061413-9

本体 ¥3,700+税



毎日新聞 2020/09/12



どこにでもあるケーキ

三角 みづ紀 著

ナナログ社

わたしは皆とはちがう 全員がささやかにあらがう でも完全にちがうのはこわい 先生が黒板に数式を書いている 先生も昔は卵だったのだろうか(「孵化する日まで」より) 13歳の日々を描いた33編を収録した第8詩集。

2020/8./ 114p

978-4-904292-95-2

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/09/12



政治部不信〜権力とメディアの関係を問い直す〜(朝日新書 775)

南彰 著

朝日新聞出版

記者は権力を監視するウォッチ・ドッグの役割を果たしているのか。男性中心で旧態依然としたメディアの体質や組織の論理、癒着を疑われる取材相手との距離感など、日本のジャーナリズムが抱える課題に切り込む。

2020/7./ 225p

978-4-02-295077-2

本体 ¥790+税



毎日新聞 2020/09/12



オオカマキリと同伴出勤〜昆虫カメラマン、虫に恋して東奔西走〜

森上 信夫 著

築地書館

小さくて刺激的な昆虫の世界をファインダー越しに捉えたい! 昆虫少年だった著者が、昆虫写真家とサラリーマンとの二足のわらじで生き物相手に大奮闘する姿を綴る。写真も多数掲載。

2020/7./ 192p

978-4-8067-1604-4

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/09/12



人口の中国史〜先史時代から19世紀まで〜(岩波新書 新赤版 1843)

上田 信 著

岩波書店

中国の人口増加は18世紀に突如始まり、現代にまで続いている。長くゆらいでいた人口は、なぜ急増したのか。大きな変容の要因を自然と歴史に探り、人口爆発のメカニズムを明らかにする。

2020/8./ 6p,251p,4p

978-4-00-431843-9

本体 ¥820+税



毎日新聞 2020/09/12



土中環境〜忘れられた共生のまなざし、蘇る古の技〜

高田宏臣 著

建築資料研究社

庭師(造園家)の職域には、土中の環境を整える作業が含まれている。土木技術はいかにして環境を守ってきたのか、そしてその技術は現代を生きる我々にどのように生かされていくべきなのか、造園を生業とする著者が鋭く説く。

2020/6./ 223p

978-4-86358-700-7

本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2020/09/12



サラリーマン球団社長

清武 英利 著
文藝春秋

旅行会社から阪神タイガースに出向した野崎。経理部員から広島カープに転職した鈴木。どん底球団の優勝に向けて、野球素人のサラリーマン 2 人が行った改革とは…。企業ノンフィクション。『週刊文春』連載を加筆し書籍化。

2020.8./ 325p
978-4-16-391251-6
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/09/12、産経新聞 2020/09/20、東京・中日新聞 2020/09/27



これからの男の子たちへ～「男らしさ」から自由になるためのレッスン～

太田 啓子 著
大月書店

「男らしさ」の呪縛は何歳から始まる？ わが子をセクハラ加害者にしないためには？ 男子 2 人を育てる弁護士ママが悩みながら考えた、ジェンダー平等時代の子育て論。小島慶子らとの対談も収録。

2020.8./ 262p
978-4-272-35047-6
本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/09/19



女誠扇綺譚～佐藤春夫台湾小説集～(中公文庫 さ80-1)

佐藤 春夫 著
中央公論新社

1920 年 6 月、新進作家佐藤春夫は日本の植民地だった台湾へと旅立った。台南の廃屋を舞台としたミステリー「女誠扇綺譚」、1930 年の霧社事件を予感させる「霧社」など、100 年前の台湾旅行に想を得た 9 篇を収録。

2020.8./ 317p
978-4-12-206917-6
本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2020/09/19



あるヘラジカの物語

鈴木 まもる 著
あすなろ書房

アラスカのヘラジカの群れに見知らぬオスが近づいてきた。群れを率いるオスとの戦いが始まると、互いの角がからまり、はずれなくなって…。写真家・星野道夫が遺した写真から生まれた、大自然のドラマと生命のつながりの物語。

2020.9./ 1 冊(ページ
付なし)
978-4-7515-2967-6
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/09/19



類

朝井 まかて 著
集英社

何不自由なく暮らした少年時代、父の死という大きな喪失を抱えパリへ遊学した青年時代、戦後の困窮から心機一転、書店を開き文筆家の道へ。森?外の末子、森類の愛と苦悩に満ちた生涯を描く。『小説すばる』掲載に加筆修正。

2020.8./ 494p
978-4-08-771721-1
本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2020/09/19



パンデミックの文明論(文春新書 1276)

ヤマザキマリ/中野 信子 著
文藝春秋

各国の感染症対策を見れば国民性がわかる。新型コロナの話題で意気投合したヤマザキマリと中野信子が、パンデミックが変えた人類の歴史、古代ローマの女性と日本の女性、「新しい日常」への高いハードルなどについて語り合う。

2020.8./ 212p
978-4-16-661276-5
本体 ¥800+税



毎日新聞 2020/09/19



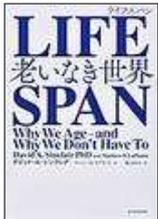
ホスト万葉集

俵 万智／野口 あや子／小佐野 弾 編
手塚マキと歌舞伎町ホスト75人from Smappa! Group 著
短歌研究社

咲かぬなら咲かせてみせるホスト花苦しく長い道のりだけど 月イチで開いた「出勤前歌会」からコロナ下の Zoom 歌会まで。ホスト達が2年間で作った900首の短歌から、一流歌人が厳選した300首を収録する。

毎日新聞 2020/09/19

2020.7./ 166p
978-4-06-520144-2
本体 ¥1,300+税



LIFESPAN～老いなき世界～

デビッド・A・シンクレア／マシュー・D・ラプラント 著
東洋経済新報社

人類の若さを左右する長寿遺伝子とは? いつまでも若く健康でいるために今すぐできることとは? 「病なき老い、老いなき世界」における人生戦略とは? 最先端科学とテクノロジーが老化のメカニズムを解明する。

毎日新聞 2020/09/19

2020.9./ 491p,98p
978-4-492-04674-6
本体 ¥2,400+税



指差す標識の事例<上>(創元推理文庫 Mへ21-1)

イーアン・ペアーズ／池 央耿／東江 一紀 著
東京創元社

1663年、チャールズ2世の統べるイングランド。オックスフォードで大学教師の毒殺事件が発生した。衝撃的な結末の第1の手記に続き、同じ事件を別の人物が語る第2の手記では、物語は全く異なる様相を呈していき...

毎日新聞 2020/09/19、産経新聞 2020/09/27、読売新聞 2020/09/27

2020.8./ 590p
978-4-488-26706-3
本体 ¥1,260+税



指差す標識の事例<下>(創元推理文庫 Mへ21-2)

イーアン・ペアーズ／池 央耿／東江 一紀 著
東京創元社

ヴェネツィア人の医学徒、父の汚名を雪ごうと逸る学生、暗号解読の達人、歴史学者の4人が綴る、1663年のオックスフォード大学で勃発した毒殺事件。4つの手記が織りなす謎の物語は、やがて予想外の結末へ...

毎日新聞 2020/09/19、産経新聞 2020/09/27、読売新聞 2020/09/27

2020.8./ 506p
978-4-488-26707-0
本体 ¥1,260+税



拾遺放光～柿本多映句集～

高橋 睦郎 編
柿本 多映 著
深夜叢書社

夏ゆくや掌ほどの湖の村 瀧頂や蝶ふはふはと四隅より 男来て冬青空に鉤吊す 八月の鯨のような精神科 「柿本多映俳句集成」に「拾遺」として収められた句集未収録作品から精選して収録。

毎日新聞 2020/09/21

2020.8./ 73p
978-4-88032-459-3
本体 ¥1,500+税



若草物語(新潮文庫)

ルイザ・メイ・オルコット、松本恵子 著
新潮社
毎日新聞 2020/09/26

1986.12./ 464p
978-4-10-202903-9
本体 ¥630+税





ハッピー・マニア<1>(祥伝社コミック文庫)

安野 モヨコ 著
祥伝社
毎日新聞 2020/09/26

2001:5./ 318p
978-4-396-38001-4
本体 ¥571+税



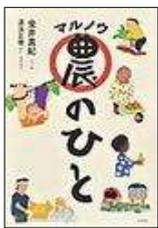
みんなみんな逝ってしまった、けれど文学は死なない。

坪内祐三 著
幻戯書房
「今を生きる文学者の使命」とは何か。「文壇おくりびと」を自任し、つねに「文学のリアル」を追い求めた評論家・坪内祐三。彼が書き継いできた、追悼と論考、文芸誌を中心とした雑誌ジャーナリズムへのオマージュ。

2020:6./ 430p
978-4-86488-200-2
本体 ¥2,800+税



毎日新聞 2020/09/26



農のひと

金井 真紀/道法 正徳 著
左右社

「肥料も農薬もいらん。地球を汚さず儲かる農業じゃ!」農の伝道師・道法正徳が、シンプルで全く新しい独自の農法にたどり着くまでの話と、道法スタイルを実践する生産者たちやワイナリー経営者を訪ねたレポートを紹介する。

2020:8./ 246p
978-4-86528-288-7
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/09/26



大江健三郎全小説全解説

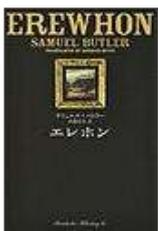
尾崎 真理子 著
講談社

1957年のデビュー以来、約60年間に書かれた大江健三郎の長編30作、中・短編66作を全て解説。あらすじ、登場人物から状況設定、執筆時の時代背景、主要批評、新解釈等を掲載する。年譜、全作品書誌、文献一覧も収録。

2020:9./ 514p,11p
978-4-06-519506-2
本体 ¥3,500+税



毎日新聞 2020/09/26



エレホン

サミュエル・バトラー 著
新潮社

NOWHERE<どこでもない場所=ユートピア>を逆さに綴った EREWHON「エレホン」とは。そこは理想郷だったのか。150年前、自由主義経済の黎明期にイギリスで刊行されたディストピア小説の源流を新訳。

2020:7./ 318p
978-4-10-507151-6
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/09/26



念カレストラン

笹公人 著
春陽堂書店

ころころと笑えるでしょう水着から塩素の匂い抜ける頃には 人気歌人による「おもしろくない」作品集。新聞、雑誌、結社誌に発表した短歌 250 首と、『日本経済新聞』連載のエッセイ、予備校合格体験記パロディなどを収録する。

2020:8./ 182p
978-4-394-99004-8
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/09/26



韓国の若者～なぜ彼らは就職・結婚・出産を諦めるのか～(中公新書ラクレ 701)

安 宿緑 著
中央公論新社

韓国では若者の多くが希望する職を得られず、アルバイトも奪い合いという格差社会の中で絶望感が拡大。結果として多くの若者が、反日の枠すら越えて日本への就職を選び始めた。彼らを取り巻く過酷な現実をレポート。

2020/9./ 206p
978-4-12-150701-3
本体 ¥820+税



毎日新聞 2020/09/26



連歌集(新潮日本古典集成 新装版)

新潮社

五七五の上句と七七の下句が交互に連なり、イメージが次々に織りなされる座の文芸「連歌」。宗祇と高弟による傑作「水無瀬三吟」ほか全 10 巻を収録。頭注、色刷りの句意と付け味、付け味の説明も掲載する。解説付き。

2020/3./ 398p
978-4-10-620862-1
本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2020/09/26



民衆暴力～一揆・暴動・虐殺の日本近代～(中公新書 2605)

藤野 裕子 著
中央公論新社

新政反対一揆、秩父事件、日比谷焼き打ち事件、関東大震災時の朝鮮人虐殺…。何が人びとを駆り立てたのか。単純には捉えられない民衆暴力を通し、近代化以降の日本の軌跡とともに国家の権力や統治のあり方を照らし出す。

2020/8./ 6p,220p
978-4-12-102605-7
本体 ¥820+税



毎日新聞 2020/09/26



プライバシーの誕生～モデル小説のトラブル史～

日比 嘉高 著
新曜社

島崎藤村や芥川龍之介、三島由紀夫「宴のあと」、柳美里「石に泳ぐ魚」などのモデル小説を取り上げ、「表現の自由」と私的領域との相克を追い、「プライバシー」概念の成立と小説のゆくえを考える。

2020/8./ 306p
978-4-7885-1685-4
本体 ¥2,900+税



毎日新聞 2020/09/26



都市と暴動の民衆史～東京・1905-1923年～

藤野 裕子 著
有志舎

日比谷焼打事件から米騒動に至るまでの間、大都市では民衆暴動が次々と発生した。20 世紀初頭の日本社会の転換を民衆史の視点から読み解き、民衆による暴力行使の文化とそれを巡って変容する社会秩序との相互関係を解明する。

2015/10./
11p,313p,4p
978-4-903426-98-3
本体 ¥3,600+税



毎日新聞 2020/09/26



世界の工場廃墟図鑑～環境問題と産業遺産～(フォトミュージアム)

デイヴィッド・ロス 著
原書房

崩れ落ちそうな無人の工場、錆付いた金属の塊や瓦礫、巨大な採掘場跡など、時代遅れとなり放棄された、世界各地の産業施設や工業施設。SF 映画の一場面のような壮大で不気味な表情を 200 点あまりの写真でとらえる。

2020/6./ 223p
978-4-562-05771-9
本体 ¥5,000+税



毎日新聞 2020/09/26



後ハッピーマニア 1(フィールコミックス)

安野 モヨコ 著
祥伝社

かつて、ハッピーを追い求め あまたの男たちと 20 代を暴走した女がいた。彼女の名はカヨコ(旧:シゲカヨ)。恋に恋した時代もあったけど、フツーでまじめな男 タカハシと結婚し、気づけばまさかの 15 年。 だが...しかし!! カヨコにぞっこんだったはずのタカハシから、突然「好きな人と付き合いたい」と離婚を突きつけられる.....! 45 歳、専業主婦。子供なし、スキルなし、金なし。別れたくないのは、愛してるから? 生活を失いたくないから? 大大ピンチの崖っぷちで、カヨコはふたたび ハッピーを求めてさ迷いはじめるのであった!

2020:8./ 168p
978-4-396-76795-2
本体 ¥900+税



毎日新聞 2020/09/26、読売新聞 2020/09/27



あさはやくに

サロメーヤ ネリス 著
ふらんす堂

花々をあさはやくに 灰いろの道に広げよう。十字路で読まれた幸せに 歌と一緒に ついていこう。(「あさはやくに」より) 1927 年、リトアニアの詩人サロメーヤ・ネリスが大学在学中に発表した処女詩集を翻訳。

2020:2./ 131p
978-4-7814-1247-4
本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/09/28



正岡子規~俳句あり則ち日本文学あり~(ミネルヴァ日本評伝選)

井上 泰至 著
ミネルヴァ書房

近代俳句・短歌、それに写生文という新しい扉を開いた正岡子規。頭脳は「近代」、腹蔵には「江戸」をしっかり張るという多面体でなければならなかった子規の「志」とは何か。挑戦と敢闘の短い生涯に迫る。

2020:9./ 21p,227p,4p
978-4-623-09013-6
本体 ¥3,000+税



毎日新聞 2020/09/28